

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ設置者	ガッコウホジツシナガハラガクエン 学校法人 永原学園								
フリガナ大学の名称	ニシキョウシユウダイガク 西九州大学（Nishikyushu University）								
大学本部の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9								
大学の目的	西九州大学は、広く知識を受け人間性の高揚を図るとともに、深く生活の基本となる専門の学術を教授研究して、高度の専門知識と応用技術を開発し、社会に貢献しわが国文化の向上と人類の福祉に寄与する人物を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	リアル（現実）とバーチャル（仮想空間）とが交錯するデジタル未来社会において、個を理解し社会を的確に把握することができる能力を基盤にして、ITの進化に対応できる能力と一人ひとりを大切にできるコミュニケーション能力を活用して新しい課題に挑戦し、その解決に向けた企画・提案を行うことができ、希望に満ちた夢のある地域社会を共に作り上げる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	学部等連係課程実施基本組織 デジタル社会共創学環 [School of Digital Society and Innovation]	4年	60人	-	240人	学士（デジタル社会共創学） 【Bachelor of Digital Society and Innovation】	令和6年4月第1年次	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	学位の分野：文学関係、社会学・社会福祉学関係
	連係協力学部（Ⅰ） 健康栄養学部 [Faculty of Health and Nutrition Sciences]			3年次				佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
	健康栄養学科 [Department of Health and Nutrition Sciences]	4	120	0	480	学士（健康栄養学） 【Bachelor of Health and Nutrition Sciences】	平成26年4月第1年次		学位の分野：家政学関係
	健康栄養学科からデジタル社会共創学環の内数とする入学定員数		30	0	120				
	連係協力学部（Ⅱ） 健康福祉学部 [Faculty of Health and Social Welfare Science]							佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
	社会福祉学科 [Department of Social Welfare Sciences]	4	80	10	340	学士（社会福祉学） 【Bachelor of Social Welfare】	昭和49年4月第1年次		学位の分野：社会学・社会福祉学関係
社会福祉学科からデジタル社会共創学環の内数とする入学定員数		30	0	120					
スポーツ健康福祉学科 [Department of Sports, Health and Welfare]	4	50	0	200	学士（スポーツ健康福祉学） 【Bachelor of Department of Sports, Health and Welfare】	平成26年4月第1年次		学位の分野：社会学・社会福祉学関係、体育関係	

連係協力学部 (Ⅲ) リハビリテーション学部 [Faculty of Rehabilitation]	リハビリテーション 学科理学療法専攻 [Department of Rehabilitation Physical Therapy Major]	4	40	0	160	学士 (理学療法 学) 【Bachelor of Physical Therapy】	平成19年4月 第1年次	佐賀県神埼市神埼町尾崎 4490番地9	学位の分野：保健 衛生学関係	
	リハビリテーション 学科作業療法専攻 [Department of Rehabilitation Occupational Therapy Major]	4	40	0	160	学士 (作業療法 学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	平成19年4月 第1年次			
	連係協力学部 (Ⅳ) 子ども学部 [Faculty of Children's Studies]	子ども学科 [Department of Children's Studies]	4	80	10	340	学士 (子ども 学) 【Bachelor of Children's Studies】	平成21年4月 第1年次	佐賀県佐賀市神園三丁目 18番15号	学位の分野：保健 衛生学関係
	心理カウンセリング学 科 [Department of Psychological Counseling]	4	40	0	160	学士 (臨床心 理学) 【Bachelor of Clinical Psychology】	平成26年4月 第1年次			
	連係協力学部 (Ⅴ) 看護学部 [Faculty of Nursing]	看護学科 [Department of Nursing]	4	90	0	360	学士 (看護 学) 【Bachelor of Nursing】	平成30年4月 第1年次	佐賀県小城市小城町176 番地27	学位の分野：保健 衛生学関係 (看護 学関係)
計		—	—	—						
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援科学研究科臨床心理学専攻博士後期課程 (2) (令和5年3月課程変更認可申請) 生活支援科学研究科臨床心理学専攻修士課程を同研究科臨床心理学専攻博士前期課程へ 名称変更 (令和6年4月名称変更予定) 生活支援科学研究科スポーツ科学専攻修士課程 (2) (令和5年3月認可申請) 生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程 (2) (令和5年3月認可申請) 									
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	デジタル社会共創学環	89 科目	40 科目	4 科目	133 科目	124単位				
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
	新 設 組 織 の 概 要	学部等連係課程実施基本組織 デジタル社会共創学環	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 教員等 人	
		連係協力学部 (Ⅰ) 健康栄養学部 健康栄養学科 連係協力学部 (Ⅱ) 健康福祉学部 社会福祉学科、 スポーツ健康福祉学科 連係協力学部 (Ⅲ) リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 連係協力学部 (Ⅳ) 子ども学部 子ども学科、 心理カウンセリング学科 連係協力学部 (Ⅴ) 看護学部 看護学科	<0> 【11】 (11)	<1> 【2】 (3)	<0> 【3】 (3)	<0> 【0】 (0)	<1> 【16】 (17)	<0> 【0】 (0)	<26> 【66】 (48)	
計	11 (11)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	— (—)			
<p>(注) < >の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員 【 】の中の数は学部等連係課程実施基本組織と連係協力学部等を兼ねる専任教員</p>										

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	西九州大学短期 大学部（必要面 積3,800㎡）と 共用 借用面積 3971.07㎡ 借用期間：30年			
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡	54,711 ㎡				
	運 動 場 用 地	18,813 ㎡	7,630 ㎡	0 ㎡	26,443 ㎡				
	小 計	58,691 ㎡	22,463 ㎡	0 ㎡	81,154 ㎡				
	そ の 他	65,243 ㎡	3,869 ㎡	0 ㎡	69,112 ㎡				
合 計	123,934 ㎡	26,332 ㎡	0 ㎡	150,266 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	西九州大学短期 大学部（必要面 積3,900㎡）と 共用			
		29,227 ㎡ (29,227 ㎡)	19,682 ㎡ (19,682 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	48,909 ㎡ (48,909 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	50 室	68 室	44 室	4 室 (補助職員 3 人)	1 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体			
		デジタル社会共創学環		17 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	デジタル社会共創学環	164,317 [11,037] (146,553 [10,937])	225 [10] (225 [10])	10 [8] (10 [8])	5,189 (4,725)	22,639 (22,609)	216 (216)		
	計	164,317 [11,037] (146,553 [10,937])	225 [10] (225 [10])	10 [8] (10 [8])	5,189 (4,725)	22,639 (22,609)	216 (216)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,960 ㎡	283 席	204,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		3,267 ㎡	トレーニングセンター 242 ㎡	テニスコート 2 面	多目的コート 1 面	弓道場 89 ㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	500千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	10,000千円	8,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,120千円	930千円	940千円	950千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	西九州大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	健康栄養学部	年	人	年次 人	人		0.75		佐賀県神埼市神埼町 尾崎4490番地9
	健康栄養学科	4	120	-	480	学士（健康栄 養学）	0.75	平成26 年4月	
	健康福祉学部						0.67		佐賀県神埼市神埼町 尾崎4490番地9
	社会福祉学科	4	80	10	340	学士（社会福 祉学）	0.50	昭和49 年4月	
	スポーツ健康福祉学科	4	50	-	200	学士（スポー ツ健康福祉 学）	0.95	平成26 年4月	
	リハビリテーション学部						0.84		佐賀県神埼市神埼町 尾崎4490番地9
	リハビリテーション学科						0.84		
	理学療法専攻	4	40	-	160	学士（理学療 法学）	1.15	平成19 年4月	
	作業療法専攻	4	40	-	160	学士（作業療 法学）	0.54	平成19 年4月	
	子ども学部						1.10		佐賀県佐賀市神園三 丁目18番15号
	子ども学科	4	80	10	340	学士（子ども 学）	1.06	平成21 年4月	
心理カウンセリング学科	4	40	-	160	学士（臨床心 理学）	1.18	平成26 年4月		
看護学部						1.08		佐賀県小城市小城町 176番地27	
看護学科	4	90	-	360	学士（看護 学）	1.08	平成30 年4月		

生活支援科学研究科									
栄養学専攻	2	2	-	4	修士（栄養学）	0.25	平成26年4月	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
栄養学専攻	3	2	-	6	博士（栄養学）	0.75	令和4年4月		
臨床心理学専攻	2	5	-	10	修士（臨床心理学）	1.80	平成26年4月	佐賀県佐賀市神園三丁目18-15	
リハビリテーション学専攻	2	3	-	6	修士（リハビリテーション学）	1.16	平成26年4月	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
子ども学専攻	2	3	-	6	修士（子ども学）	0.16	平成27年4月	佐賀県佐賀市神園三丁目18-15	
健康福祉学専攻	2	5	-	10	修士（社会福祉学）、修士（学術）	1.00	平成27年4月	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
健康福祉学専攻	3	3	-	9	博士（社会福祉学）、博士（学術）	0.77	平成27年4月		
看護学専攻	2	5	-	10	修士（看護学）	0.60	令和4年4月	佐賀県小城市小城市町176番地27	
大 学 の 名 称	西九州大学短期大学部								
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
地域生活支援学科	2	100	-	200	短期大学士（地域生活支援学）	0.74	平成29年4月	佐賀県佐賀市神園三丁目18-15	
幼児保育学科	2	90	-	180	短期大学士（保育学）	0.78	昭和40年4月		
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(デジタル社会共創学環)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2						11	2	3			兼2
	地球環境・SDGs入門	1前	2			○			3					兼5 オムニバス
	関連職種連携入門	1前		2		○					1			兼12 オムニバス
人間・文化・科学	心理学入門	1・2前	2			○								兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2		○			1					
	人間論と現代思想	1・2後		2		○			1					
	文学と言語	1・2前		2		○								兼1
	生涯学習論	1・2前		2		○								兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後	2			○								兼1
	脳と認知科学	1・2後		2		○								兼1
	法学	1・2前		2		○								兼1
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2		○								兼1
	文化人類学	1・2後	2			○								兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2		○			1					
	多文化社会学	1・2前	2			○			1					
	くらしと経済	1・2前		2		○								兼1
	ジェンダー論	1・2後		2		○								兼1
	生命のしくみ	1・2前		2		○								兼1
	生物と環境	1・2後		2		○								兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2		○								兼1
	統計学の基礎	1・2前	2			○								兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2		○								兼1
地球環境科学	1・2後		2		○								兼1	
健康スポーツ科学	1・2後		2		○								兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1			○							兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1			○							兼1	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼2
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼2
	SDGs英語	2後	1				○			1				
	World Issues（世界事情）	1・2前		2		○		○		1				兼6 オムニバス
	語学研修	1・2・3・4前・後		1				○		1				
	中国語	1前		1			○							兼1
	韓国語	1後		1			○							兼1
	日本語初級	1前		1			○							兼1
	日本語中級	1後		1			○							兼1
日本語上級	1後		1			○							兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2			○			2					兼7 オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1				○		2		1			
小計（39科目）		—	20	46	0	—	—	—	11	2	3	0	0	兼51

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	ICT活用	情報メディア入門	1前	2			○			1						兼1	オムニバス
	情報メディア演習Ⅰ	2前	1				○			1							
	情報メディア演習Ⅱ	2後	1				○			1							
	情報メディア演習Ⅲ	3前		1			○									兼1	
	情報メディア演習Ⅳ	3後		1			○									兼1	
	情報数学入門	1後		2			○			1							
	メタバース論	2前	2				○									兼1	
	メタバース演習	2後		1				○								兼1	
	データアナリティクス概論	3後		2			○									兼1	
	情報ネットワーク論	2前		2			○									兼1	
	情報ネットワーク演習	2後		1				○								兼1	
	ソーシャルメディア論	1後		2			○									兼1	
	AIとビッグデータ論	2前		2			○									兼1	
	社会データ分析	2前		2			○			1							
	社会データ分析演習	2後		1				○		1							
	デジタルユニバーサルデザイン論	2後		2			○									兼1	
	コンピュータのための物理学	2後		2			○									兼1	
	映像制作の基本	2後		2			○									兼1	
	映像制作演習	3前		1				○								兼1	
	プログラム基礎論	3前		2			○									兼1	
	アルゴリズムとデータ構造	3前		2			○									兼1	
	リモート学習支援技術	3前		2			○						1				
	e-sports論	3前		2			○			1	1						オムニバス
	e-sports演習	3後		1				○			1						
	ウェブコンテンツ演習	3後		1				○								兼1	
	グラフィックデザイン演習	2後		1				○								兼1	
小計 (26科目)		-	8	33	0		-		3	1	1	0	0		兼7		
コミュニケーション	文字と言葉	1後		2			○								兼1		
	音楽とコミュニケーション	1前		2			○								兼1		
	デジタル・コミュニケーション支援学概論	1後		2			○			1	1					オムニバス	
	デジタル・コミュニケーション支援学演習	2前		1				○			1						
	デジタル・コミュニケーション支援学特論	4後		2			○			1	1					オムニバス	
	プレゼンテーション論	2前		2			○								兼1		
	テレコミュニケーション倫理	2後		2			○			1							
	教育とコミュニケーション	1前		2			○			2					兼1	共同	
	身体コミュニケーション	2後		2			○								兼1		
	レクリエーション支援論	2前		2			○			1					兼1	オムニバス	
	レクリエーション支援演習	2後		2				○		1					兼1	オムニバス	
小計 (11科目)		-	6	15	0		-		5	1	0	0	0	兼5			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	地域デザイン論	2後		2		○									兼1	オムニバス
	地域の食産業	2前		2		○									兼8	
	食品栄養学	2後		2		○			1							
	ボランティア活動	2・3通		2				○	3	1						
	インターンシップ	3通		2				○	4							兼1
	PBL特別演習	3前	2				○		6	2	3					兼1
	PBLゼミナールⅠ	2前	1				○		8	3						兼1
	PBLゼミナールⅡ	2後	1				○		8	3						兼1
	PBLゼミナールⅢ	3前	1				○		7	3						兼1
	PBLゼミナールⅣ	3後	1				○		7	3						兼1
	卒業研究	4通	4				○		7	2						兼1
	小計(11科目)	—	—	10	10	0	—	—	11	3	3	0	0		兼10	
小計(94科目)	—	—	37	136	0	—	—	11	3	3	0	0		兼53		
合計(133科目)		—	57	182	0	—	—	11	3	3	0	0		兼92		
学位又は称号		学士(デジタル社会共創学)			学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>【卒業要件】：下記履修方法により、総計124単位以上を修得。</p> <p>●グローバルコース ○共通教育科目群から、必修科目20単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目16単位、選択科目(コース必修科目を除く)43単位以上修得。</p> <p><コース必修科目> TOEIC I (1)、TOEIC II (1)、Academic English I (1)、Academic English II (1)、グローバルスタディーズ(2)、English Camp(4)、留学準備演習(2)、留学(4)</p> <p>●情報メディアコース ○共通教育科目群から、必修科目20単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目14単位、選択科目(コース必修科目を除く)45単位以上修得。</p> <p><コース必修科目> 情報数学入門(2)、情報ネットワーク論(2)、社会データ分析(2)、プログラム基礎論(2)、文字と言葉(2)、身体コミュニケーション(2)、インターンシップ(2)</p> <p>(履修科目の登録の上限：46単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(健康栄養学部健康栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2					○		3	2				
	地球環境・SDGs入門	1前	2					○			1			兼7 オムニバス	
	関連職種連携入門	1前		2				○				1		兼12 オムニバス	
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後		2				○						兼1	
	現代社会と倫理	1・2前		2				○						兼1	
	人間論と現代思想	1・2後		2				○						兼1	
	文学と言語	1・2前		2				○						兼1	
	生涯学習論	1・2前		2				○						兼1	
	肥前の歴史と文化	1・2後		2				○						兼1	
	脳と認知科学	1・2後		2				○						兼1	
	法学	1・2前		2				○						兼1	
	日本国憲法	1・2後		2				○						兼1	
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2				○						兼1	
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2				○						兼1	
	多文化社会学	1・2前		2				○						兼1	
	くらしと経済	1・2前		2				○						兼1	
	ジェンダー論	1・2後		2				○						兼1	
	生命のしくみ	1・2前		2				○						兼1	
	生物と環境	1・2後		2				○		1				兼1	
	身近な生活の化学	1・2前		2				○						兼1	
	統計学の基礎	1・2前		2				○						兼1	
身近な世界の物理学	1・2前		2				○						兼1		
地球環境科学	1・2後		2				○						兼1		
健康スポーツ科学	1・2後		2				○						兼1		
フィットネス・スポーツ	1前		1					○					兼2		
ウェルネス・スポーツ	1後		1					○					兼1		
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼3	
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○						兼3	
	SDGs英語	2後		1				○		1					
	World Issues（世界事情）	1・2前		2				○		1	1			兼5 オムニバス	
	語学研修	1・2・3・4前・後		1							1				
	中国語	1前		1				○						兼1	
	韓国語	1後		1				○						兼1	
	日本語初級	1前		1				○						兼1	
日本語中級	1後		1				○						兼1		
日本語上級	1後		1				○						兼1		
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2					○		3				兼6	
	データサイエンス演習	1後	1					○		8	2	1		オムニバス	
小計（38科目）		—	9	55	0			—		9	3	2	0	0	兼51

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 学科専門科目	社会・健康と環境	公衆衛生学Ⅰ	1後	2			○			1						
		公衆衛生学Ⅱ	2前	2			○			1						
		公衆衛生学Ⅲ	2後	2			○			1						
		公衆衛生学実習	3前	1					○	1						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	1前	2				○			1					
		解剖生理学実習	2後	1						○	1					
		生理学のための基礎薬理学	3後	2				○								兼1
		生化学	1後	2				○			1					
		生化学実験	2前	1							○	1				
		病態生化学	2前	2				○			1					
		疾病論Ⅰ	2前	2				○			1					
		疾病論Ⅱ	2後	2				○			1					
		栄養内科学	3前	2				○			1					
	基礎臨床実習	3前	1							○	1					
	食べ物と健康	食品学	1後	2				○			1					
		食品学実験	2前	1							○	1				
		食品加工学	2前	2				○								兼1
		食品衛生学	2前	2				○				1				
		調理学	1前	2				○					1			
		調理実習Ⅰ	1前	1								○				兼1
		調理実習Ⅱ	1後	1								○				兼1
		調理実習Ⅲ	2前	1								○				オムニバス
		食事設計実習	2前	1								○				
	調理教育学実習	3前	1								○					
	基礎栄養学	基礎栄養学	1前	2				○					1			
		基礎栄養学実験	1後	1									○	1		
	応用栄養学	ライフステージ別栄養学	2前	2				○						1		
食事摂取基準概論		2前	2				○						1			
栄養マネジメント概論		2前	2				○						1			
応用栄養学実習		2後	1										○	1		
栄養教育論	栄養教育概論	2後	2				○				1					
	栄養教育論Ⅰ	3前	2				○				1					
	栄養教育論Ⅱ	3後	2				○				1					
	栄養教育論実習Ⅰ	3前	1										○		兼1	
	栄養教育論実習Ⅱ	3後	1										○		兼1	
臨床栄養学	臨床栄養学概論	3前	2				○					1				
	臨床栄養学	3後	2				○					1				
	臨床栄養学実習	3後	1									○	1			
	栄養療法論	2後	2				○						1			
	栄養療法論実習	3後	1										○	1		
	臨床栄養管理学	4前	2				○					1				
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	3前	2				○						1			
	公衆栄養学Ⅱ	3後	2				○						1			
	公衆栄養学実習	4前	1										○	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	給食経営管理論	給食計画論	2前	2			○			1						
		給食経営管理論	3後		2			○				1				
		給食経営管理実習	2後		1				○			1				
	総合演習	栄養総合演習Ⅰ	3前		1			○				1				
		栄養総合演習Ⅱ	3後		1			○				3				
		栄養総合演習Ⅲ	4前		1			○		1		1			オムニバス	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食管理）	3前		1				○			1				
		臨地実習Ⅱ（臨床栄養）	3後		2				○			3				
		臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	4前		1				○	1		1				
		臨地実習Ⅳ（臨床栄養）	3後		1				○			2				
	実践力養成	健栄ゼミ（基礎1）	2前	1				○				2				
		健栄ゼミ（基礎2）	2後	1				○		1		2				
		健栄ゼミ（展開）	3前	1				○		1		2				
		キャリアアップ演習Ⅰ	4前	1				○		8	2	5			オムニバス	
		キャリアアップ演習Ⅱ	4後	1				○		8	2	5			オムニバス	
	卒業研究	卒業研究ゼミナールⅠ	3後	1				○		7	2	5				
		卒業研究ゼミナールⅡ	4前	2				○		7	2	5				
		卒業演習	4後		2			○		7	2	5				
		卒業研究	4後		2			○		7	2	4				
	自由選択科目	選択科目	化学	1前		2		○			1					兼1
			食品衛生学実験	2後		1				○		1				兼1
			福祉栄養学	2後		2			○							兼1
			福祉栄養学実習	3前		1				○						兼1
			運動指導論	3前		2			○							兼1
			健康栄養学演習	3後		1			○		8	1	6			オムニバス
			食品機能学	2前		2			○		1					
微生物学			1後		2			○							兼1	
スポーツ栄養学			3前		2			○		1						
食品の創製ゼミナール			3通		1				○	1	1				オムニバス	
地域の食産業			2前		2			○		1					兼7	
栄養教諭論			2前		2			○				1				
学校食育指導論	2後		2			○				1						
小計（76科目）		—	38	80	0		—		8	2	6	0	0	兼13		
合計（114科目）		—	47	135	0		—		10	3	6	0	0	兼64		
学位又は称号		学士（健康栄養学）			学位又は学科の分野			家政学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より13単位以上修得。専門教育科目必修38単位、選択科目より64単位（内2単位は、「卒業研究」・「卒業演習」のいずれか2単位を選択必修。）以上修得。（履修科目の登録の上限：50単位（年間））							1 学年の学期区分		2 学期							
							1 学期の授業期間		1 5 週							
							1 時限の授業時間		9 0 分							

教育課程等の概要														
（健康福祉学部 社会福祉学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2				○							
	あすなろうⅡ 応用（地域課題）	2・3・4通		2			○		1					
	あすなろうⅢ 地域協働（インターンシップ）	2・3・4通		2			○		1					
	地球環境・SDGs入門 関連職種連携入門	1前 1前	2 2			○ ○				1 2				兼7 兼11 オムニバス オムニバス
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後		2			○							兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2			○		1					
	人間論と現代思想	1・2後		2			○		1					
	文学と言語	1・2前		2			○							兼1
	生涯学習論	1・2前		2			○							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○							兼1
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1
	法学	1・2前		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○		1					
	多文化社会学	1・2前		2			○		1					
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1
	地球環境科学	1・2後		2			○							兼1
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼2	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼2	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼3
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼3
	SDGs英語	2後		1			○							兼1
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7
	語学研修	1・2・3・4前・後		1					○					兼1
	中国語	1前		1				○						兼1
	韓国語	1後		1				○						兼1
	日本語初級	1前		1				○						兼1
	日本語中級	1後		1				○						兼1
日本語上級	1後		1				○						兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2				○		1					兼8
	データサイエンス演習	1後	1					○	1	2	1			
小計（40科目）		—	9	59	0	—	—	—	3	4	1	0	0	兼53

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部基幹科目	健康福祉概論	1前	2			○			1	1					兼2	オムニバス	
学科基幹科目	社会福祉原論Ⅰ	1前	2			○			1								
	社会福祉原論Ⅱ	1後	2			○			1								
小計(3科目)		—	6	0	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼2			
専門教育科目 学科専門科目	ゼミナール	発展ゼミナールⅠ	2通	2			○		1	2	1						
	発展ゼミナールⅡ	3通	2				○		1	4							
	発展ゼミナールⅢ(含卒業研究)	4通	4				○		1	4							
	人と社会	人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	1前		2			○		1							
		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	1後		2			○		1							
		心理学Ⅰ	1前		2			○								兼1	
		心理学Ⅱ	1後		2			○								兼1	
		生涯発達心理学	1前		2			○								兼1	
		社会学と社会システム	1後		2			○		1							
		社会調査の基礎	3前		2			○		1							
	地域福祉	地域福祉論Ⅰ	4前		2			○			1						
		地域福祉論Ⅱ	4後		2			○			1						
		福祉サービスの組織と経営	3前		2			○								兼1	
	福祉サービスに関する知識	社会保障論Ⅰ	2前		2			○			1						
		社会保障論Ⅱ	2後		2			○			1						
		高齢者福祉論	2前		2			○								兼1	
		介護論	2後		2			○			1						
		障害者福祉論	2前		2			○				1					
		児童・家庭福祉論	2前		2			○		1							
		公的扶助論	4前		2			○			1						
保健医療論		3前		2			○			1							
権利擁護を支える法制度		2後		2			○			1							
更生保護制度		4前		1			○			1							
司法福祉論	4前		1			○								兼1			
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前		2			○				1						
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後		2			○				1						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2			○		1								
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後		2			○		1								
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前		2			○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後		2			○			1							
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1前		1				○		1						兼2	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2前		1				○		1	1				兼1		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2後		1				○		1	1				兼1		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前		1				○		1					兼2		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		1				○		1					兼2		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2通		2				○		2	1						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		2				○		2	1						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		2				○		2	1						
ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通		4					○	2	1							
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3通		2					○	2	1							
ソーシャルワークの展開	ソーシャルワーク特講	2通		2				○		3							
	高齢者ソーシャルワーク	2通		2				○		1							
	多文化ソーシャルワーク	3前		2				○	2							オムニバス	
	福祉マネジメント論	3通		2				○		1							
	医療ソーシャルワーク	3前		2				○		1							
専門実習・演習	専門実習(福祉分野)	4前		2					○	3							
	専門実習(企業・団体)	4前		2					○	1							
	専門演習(福祉分野)	4後		1					○						兼1		
	専門演習(企業・団体)	4後		1					○	1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目 学科専門科目	精神保健福祉	精神疾患とその治療Ⅰ	3前	2		○										兼1			
		精神疾患とその治療Ⅱ	3後	2		○										兼1			
		精神保健学Ⅰ	3前	2		○			1										
		精神保健学Ⅱ	3後	2		○			1										
		精神保健福祉の原理Ⅰ	1後	2		○				1									
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2前	2		○				1									
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3前	2		○													
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3後	2		○													
		精神障害リハビリテーション論	2前	2		○													
		精神保健福祉制度論	2後	2		○													
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	3後	1				○			1								
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前	1				○			1								
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅲ	4後	1				○			1								
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後	2				○			1								
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前	2				○			1								
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4後	2				○			1								
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	4通	3					○		1								
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	4通	2					○		1								
		介護の対象 の理解	認知症の理解Ⅰ	1前	2			○			1								
	認知症の理解Ⅱ		1後	2			○				1								
	こころからだのしくみ		3後	2			○			1									
	障害の理解		2後	2			○										兼1		
	介護の 基本	介護概論Ⅰ	2前	2			○				1								
		介護概論Ⅱ	2後	2			○				1								
		自立支援論	4前	2			○											兼1	
		介護サービス利用者論	3後	2			○				1								
		介護サービス論Ⅰ	3前	2			○				1								
	介護サービス論Ⅱ	3後	2			○				1									
	生活 支援 技術	生活支援技術入門	2前	1			○				1								
		生活環境支援技術	4前	1			○											兼1	
		基礎生活支援技術Ⅰ	2前	1			○											兼1	
		基礎生活支援技術Ⅱ	2後	1			○				1								
		応用生活支援技術Ⅰ(高齢者)	3前	1			○				1								
		応用生活支援技術Ⅱ(障害者)	2後	1			○											兼1	
		応用生活支援技術Ⅲ(医療ニーズ)	3後	1			○			1									
		応用生活支援技術Ⅳ(認知症)	3後	1			○				1								
	応用生活支援技術Ⅴ(ターミナル期)	4前	1			○			1										
	家事生活支援技術	2後	1			○										兼2	オムニバス		
	介護 の 過程	介護過程入門	3前	1			○				1								
		介護過程演習Ⅰ	3後	1				○				1						兼1	
		介護過程演習Ⅱ	4前	1				○				1							
		介護過程演習Ⅲ	4後	1				○				1							
		ケアマネジメント演習	2前	1				○										兼1	
	介護 演習 ・ 実習	介護総合演習Ⅰ	2前	1				○			1	2						オムニバス	
		介護総合演習Ⅱ	2後	1				○			1	2						オムニバス	
		介護総合演習Ⅲ	3後	1				○			1	2						オムニバス	
		介護総合演習Ⅳ	4通	1				○			1	2						オムニバス	
		介護実習Ⅰ	2前	2					○		1	2							
		介護実習Ⅱ	2後	2					○		1	2							
		介護実習Ⅲ	2後	1					○		1	2							
		介護実習Ⅳ	3後	2					○		1	2							
		介護実習Ⅴ	4前	3					○		1	2							
	医療的 ケア	医療的ケアⅠ	2後	2			○				1								
		医療的ケアⅡ	3前	2			○				1								
		医療的ケア演習	3前	1				○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	教育と福祉に関わる科目	教育基礎論	1後	2		○									兼1	
		教育心理学	2前	2		○									兼1	
		教育制度論	2前	2		○									兼1	
		教育課程論	2後	1		○									兼1	
		福祉科教育法Ⅰ	3前	2		○									兼1	
		福祉科教育法Ⅱ	3後	2		○									兼1	
		ファミリーソーシャルワーク	2後	2		○				1						
		スクールソーシャルワーク	4前	2		○									兼1	
	グローバルに関わる科目	地域社会組織論	2前	2		○				1						
		地域再生・創生論	1後	2		○					1					
		社会福祉外書講読	3前	2		○				1						
		健康福祉海外演習	2・3・4通	1			○			2						オムニバス
		健康福祉海外実習	2・3・4通	2				○		2						
	福祉に関わる方策	健康管理学	1後	2		○									兼1	
		レクリエーション支援論	2前	2		○									兼2	オムニバス
		レクリエーション支援演習	2後	2			○								兼2	オムニバス
		高齢者の健康と運動	3後	2		○									兼1	
リハビリテーション論		3前	2		○									兼2	オムニバス	
アダプテッド・スポーツ論		3前	2		○									兼2	共同(一部)	
ユニバーサルデザイン概論		2後	2		○									兼1		
人権論		2後	2		○									兼1		
死生学		3前	2		○									兼1		
介護技術		3前	1			○								兼1		
社会政策		3前	2		○									兼1		
社会問題		3後	2		○									兼1		
社会福祉特講Ⅰ		4前	2		○				4	4	1			兼1	オムニバス	
社会福祉特講Ⅱ		4後	2		○				4	4	1			兼1	オムニバス	
公衆衛生学	2前	2		○									兼1			
救急処置	2後	2		○				1					兼3	オムニバス		
家政学概論	1後	2		○					1				兼1	オムニバス		
健康栄養学概論	2後	2		○									兼1			
小計(135科目)		—	8	232	0	—			6	5	1	0	0	兼37		
小計(138科目)		—	14	232	0	—			6	5	1	0	0	兼39		
合計(178科目)			—	23	291	0	—		6	5	1	0	0	兼86		
学位又は称号		学士(社会福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より8単位以上修得。専門教育科目必修14単位、選択科目より93単位以上修得。(履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			1 5 週						
							1 時限の授業時間			9 0 分						

教育課程等の概要														
（健康福祉学部 スポーツ健康福祉学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2						3	2	2			
	地球環境・SDGs入門	1前	2			○			2					兼6 オムニバス
	関連職種連携入門	1前		2			○				1			兼12 オムニバス
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後		2			○							兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2			○							兼1
	人間論と現代思想	1・2後		2			○							兼1
	文学と言語	1・2前		2			○							兼1
	生涯学習論	1・2前		2			○							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○							兼1
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1
	法学	1・2前		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○							兼1
	多文化社会学	1・2前		2			○							兼1
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1
地球環境科学	1・2後		2			○							兼1	
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○			1			兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○			1			兼1	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼3
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼3
	SDGs英語	2後		1			○							兼1
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7 オムニバス
	語学研修	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
	中国語	1前		1				○						兼1
	韓国語	1後		1				○						兼1
	日本語初級	1前		1				○						兼1
日本語中級	1後		1				○						兼1	
日本語上級	1後		1				○						兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2				○							兼9 オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1					○		3	2	2		
小計（38科目）		—	9	55	0	—			5	2	2	0	0	兼55

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基幹科目	健康福祉概論	1前	2			○			1	1				兼2	オムニバス
学科基幹科目	地域スポーツ支援論	1後	2			○				1	1	1			オムニバス
	スポーツ文化論	1前	2			○			1						
	ゼミナール	スポーツ健康福祉学演習Ⅰ	3通	4			○		3	2	2				
		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ(含卒業研究)	4通	6			○		3	1	2				
	人・社会・生活	人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	1前		2		○								兼1
		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	1後		2		○								兼1
		心理学Ⅰ	1前		2		○								兼1
		心理学Ⅱ	1後		2		○								兼1
		生涯発達心理学	1前		2		○								兼1
		社会学と社会システム	1後		2		○								兼1
		社会調査の基礎	3前		2		○								兼1
	地域福祉	地域福祉論Ⅰ	4前		2		○								兼1
		地域福祉論Ⅱ	4後		2		○								兼1
		福祉サービスの組織と経営	3前		2		○								兼1
	福祉サービスに関する知識	社会福祉原論Ⅰ	1前		2		○								兼1
		社会福祉原論Ⅱ	1後		2		○								兼1
		社会保障論Ⅰ	2前		2		○								兼1
		社会保障論Ⅱ	2後		2		○								兼1
		高齢者福祉論	2前		2		○								兼1
		介護論	2後		2		○								兼1
		障害者福祉論	2前		2		○								兼1
		障害の理解	2後		2		○								兼1
		児童・家庭福祉論	2前		2		○								兼1
		公的扶助論	4前		2		○								兼1
		保健医療論	3前		2		○								兼1
		権利擁護を支える法制度	2後		2		○								兼1
		更生保護制度	4前		1		○								兼1
	司法福祉論	4前		1		○								兼1	
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前		2		○								兼1
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後		2		○								兼1
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2		○								兼1
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後		2		○								兼1
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前		2		○								兼1
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後		2		○								兼1
	福祉に関わる方策	人権論	2後		2		○								兼1
		死生学	3前		2		○								兼1
		社会政策	3前		2		○								兼1
		社会問題	3後		2		○								兼1
	グローバルに関わる科目	地域社会組織論	2前		2		○								兼1
		地域再生・創生論	1後		2		○								兼1
	支援	ユニバーサルデザイン概論	1後		2		○								兼1
		ユニバーサルデザイン各論	2前		2		○								兼1
	健康スポーツに関する科目	運動学(運動方法学を含む)	2後		2		○			1	1				
		生理学(運動生理学を含む)	1前		2		○			1					
		運動生理学演習	3後		2			○		1					
		機能解剖学	1前		2		○				1				
		バイオメカニクス	3前		2		○				1				
		コーチング学	3前		2		○					1			
		スポーツ心理学	2前		2		○					1			
		メンタルマネジメント	2後		2		○					1			
		スポーツ社会学	3前		2		○			1					
		スポーツマネジメント論	3後		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
健康スポーツに関する科目	基礎科目	スポーツ行政学	2後	2		○			1						兼1	
		スポーツ栄養学	2前	2		○										
		生涯スポーツ論	1前	2		○			1							
		健康管理学	1前	2		○			1							
		衛生学(公衆衛生学を含む)	1後	2		○			1							
		スポーツ医学	2前	2		○										兼1
		トレーニング論	1後	2		○										兼1
		トレーニング演習	2前	2			○									兼1
		トレーニング学特講	3後	2		○					1					
		コンディショニング演習	3前	2			○									兼1
		救急処置(学校安全を含む)	2後	2		○										兼4
		精神保健学Ⅰ	3前	2		○										兼1
		精神保健学Ⅱ	3後	2		○										兼1
		学校保健	2後	2		○				1						
		運動・スポーツ指導法演習	3通	2			○			1	1	1				オムニバス
		スポーツ統計学	3後	2		○					1	2				オムニバス
健康スポーツに関する科目	運動方法関連科目	運動方法学演習1(体づくり)	1後	1		○									兼1	
		運動方法学演習2(器械運動)	1前	1		○									兼1	
		運動方法学演習3(陸上)	1前	1		○					1					
		運動方法学演習4(水泳)	2前	1		○				1					兼1	共同
		運動方法学演習5(バスケットボール)	1前	1		○									兼1	
		運動方法学演習6(サッカー)	1後	1		○									兼1	
		運動方法学演習7(柔道)	2前	1		○									兼1	
		運動方法学演習8(剣道)	1後	1		○									兼1	
		運動方法学演習9(ダンス)	2後	1		○									兼1	
		運動方法学演習10(健康体力づくり)	2前	1		○									兼1	
		運動方法学演習11(アダプテッド・スポーツ)	3後	1		○									兼1	
		運動方法学演習12(キャンプ)	2前	1		○				1						
		運動方法学演習13(スキー)	2後	1		○				1						
		運動方法学演習14(バレーボール)	2後	1		○					1					
		運動方法学演習15(テニス)	3後	1		○									兼1	
		運動方法学演習16(ソフトボール)	3前	1		○									兼1	
健康スポーツに関する科目	健康運動支援関連科目	運動処方	3前	2		○			1							
		運動負荷試験	3後	2		○			1							
		測定評価	2後	2		○			1							
		健康体力づくり論	2前	2		○					1					
		健康産業施設等現場実習	4通	2				○		1		1				
		健康運動総合演習Ⅰ	3後	2				○		1					兼1	
健康運動総合演習Ⅱ	4前	2				○		1								
健康スポーツに関する科目	生涯スポーツ支援関連科目	地域スポーツ実践演習Ⅰ	2通	4		○			3	2	2					
		地域スポーツ実践演習Ⅱ	3通	4		○			3	2	2					
		レクリエーション支援論	2前	2		○			1						兼1	
		レクリエーション支援演習	2後	2		○			1						兼1	
		アダプテッド・スポーツ論	3前	2		○			1						兼1	
		発育発達論	1前	2		○				1						
		子どもの運動とスポーツ	1後	2		○						1			兼1	
高齢者の健康と運動	3後	2		○												
リハビリテーション論	3前	2		○									兼2			
キャリアデザイン関連科目	キャリアデザイン基礎演習	キャリアデザイン基礎演習	3通	2		○			2	1					オムニバス	
		キャリアデザイン実践演習	3通	4		○			3	2	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目 学科専門科目	教職課程に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ		2		○				1									
		保健体育科教育法Ⅱ	2後	2		○				1									
		保健体育科教育法Ⅲ	3前	2		○				1									
		保健体育科教育法Ⅳ	3前	2		○				1									
		教育基礎論	1後	2		○												兼1	
		教職論	2前	2		○				1									兼1
		教育制度論	2前	2		○													兼1
		教育心理学	2前	2		○													兼1
		特別の支援を要する児童・生徒の理解	2前	1		○													兼2
		教育課程論	2後	1		○													兼1
		道徳教育指導論	2後	2		○													兼1
		総合的な学習の時間の指導法	2前	1		○				1									
		特別活動論	3後	1		○													兼1
		教育方法・技術論	3前	1		○													兼1
		情報通信技術の活用	3前	1		○													兼1
		生徒指導論	3後	2		○													兼1
		教育相談	3前	2		○													兼1
進路指導論	3後	1		○													兼1		
教育実習事前事後指導	4前	1		○						1									
教育実習	4通	4					○		1	1									
教職実践演習(中・高)	4後	2					○		2	1							兼2		
教育実習基礎演習	3通	2					○		1	1							兼2		
小計 (125科目)		—	16	222	0	—			6	2	2	0	0	0	0	0	兼58		
合計 (163科目)		—	25	277	0	—			6	2	2	0	0	0	0	0	兼101		
学位又は称号		学士 (スポーツ健康福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係、体育関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より8単位以上修得。 専門教育科目必修16単位、選択科目より91単位以上修得。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1 学年の学期区分			2 学期									
							1 学期の授業期間			1 5 週									
							1 時限の授業時間			9 0 分									

教育課程等の概要														
(リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育舎）	1通	2						5	3	1			
	地球環境・SDGs入門	1前	2				○							兼8 オムニバス
	関連職種連携入門	1前		2			○		1					兼12 オムニバス
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後	2				○							兼1
	現代社会と倫理	1・2前	2				○							兼1
	人間論と現代思想	1・2後		2			○							兼1
	文学と言語	1・2前		2			○							兼1
	生涯学習論	1・2前		2			○							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○							兼1
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1
	法学	1・2前		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○							兼1
	多文化社会学	1・2前		2			○							兼1
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1
	地球環境科学	1・2後		2			○							兼1
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼2
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼2
	SDGs英語	2後		1			○							兼1
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7 オムニバス
	医学英語	2前		1			○			1				兼1
	語学研修	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
	中国語	1前		1			○							兼1
	韓国語	1後		1			○							兼1
	日本語初級	1前		1			○							兼1
	日本語中級	1後		1			○							兼1
日本語上級	1後		1			○							兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2				○		1					兼8 オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1				○		5	3	1			
小計（39科目）		—	13	52	0		—		5	3	1	0	0	兼58

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	基本科目	人間関係論	3前	2			○									兼1		
		障害者福祉論	2前		2			○								兼1		
		レクリエーション論	3前		2				○							兼1		
		園芸療法実習	2前		2				○							兼3	共同(一部)	
		園芸論	1前		2				○							兼3	共同(一部)	
		園芸療法論	1後		2				○							兼3	共同(一部)	
		ガーデニング	1後		2				○							兼3	共同(一部)	
		公衆衛生学	1後	2					○							兼2	オムニバス	
	関連職種連携論	3前		2				○							兼11	オムニバス		
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			○			1							
			解剖学Ⅱ	1後	2			○			1							
			解剖学実習	2前	1					○		1						
			生理学Ⅰ	1前	2			○				1						
			生理学Ⅱ	1後	2			○				1						
			生理学実習	2前	1					○		1		1			兼1	共同
			人間発達学	1前	2			○			1							
			運動学Ⅰ	1前	2			○						1				
			運動学Ⅱ	1後	2			○						1				
			運動学実習	2前	1					○				1				
	専門教育科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2後	1			○									兼1	
			内科学Ⅰ	2前	1			○									兼1	
			内科学Ⅱ	2後	1			○									兼1	
			老年学	2後	1			○									兼2	オムニバス
			整形外科Ⅰ	2前	1			○									兼1	
			整形外科Ⅱ	2後	1			○									兼1	
			神経内科学Ⅰ	2前	1			○									兼1	
			神経内科学Ⅱ	2後	1			○									兼1	
小児科学			2前	1			○									兼10	オムニバス	
精神医学Ⅰ			2前	1			○									兼2	オムニバス	
精神医学Ⅱ			2後		1			○								兼2	オムニバス	
感染予防・救急法			2前	1		1		○								兼1		
臨床薬学の基礎			3前	1				○								兼1		
画像評価学			3前	1				○			1							
リハビリテーション栄養学	3前	1				○								兼1				
疾病予防と健康管理	3後	1				○			1									
専門教育科目	保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前	2			○			1						兼1	オムニバス	
		リハビリテーション医療	1後	2			○			1						兼1	オムニバス	
専門科目	基礎理学療法	理学療法概論	1前	1			○				1							
		基礎理学療法	1後	2			○				1							
		理学療法研究法	3前	2			○				1							
		理学療法研究法演習	3後	1					○		5	3	1				共同	
	理学療法管理学	4後	2					○			1							
	理学療法評価	理学療法評価学Ⅰ	1後	1			○				1							
		理学療法評価学Ⅱ	2前	2			○				1							
理学療法評価学Ⅲ		2前	2			○				1								
理学療法評価学実習		2後	1					○		3						共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	理学療法治療学	物理療法学	2前	2			○				1					
		物理療法学演習	2後	1				○			1					
		運動療法学	2前	2			○			1						
		運動療法学実習	2後	1					○	3						
		運動器障害理学療法学	3前	2			○					1				
		運動器障害理学療法学実習	3後	1					○			1				
		神経障害理学療法学	3前	2			○				1					
		神経障害理学療法学演習	3前	1				○			1					
		神経障害理学療法学実習	3後	1					○		2					
		内部障害理学療法学	3前	2			○				1					
		内部障害理学療法学演習	3後	1				○			1	1				
		発達障害理学療法学	3前	2			○				1					
		発達障害理学療法学演習	3後	1				○			1	1				
		老年期障害理学療法学	3後	2			○				1					
		日常生活活動学	3前	2			○					1				
		日常生活活動学実習	3後	1					○			2				
		義肢装具学	2後	2			○				1					
		理学療法学特論Ⅰ	4後	1			○				5	3	1			
		理学療法学特論Ⅱ	4後		1		○				5	3	1			
	学地学療域法理	地域理学療法学	3前	2			○				1					
		地域理学療法学演習	3後	1							1					
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1後	1					○	5	3	1				
		臨床実習Ⅱ	2後	1					○	5	3	1				
臨床実習Ⅲ		3後	4					○	5	3	1					
臨床実習Ⅳ-1		4前	8					○	5	3	1					
	臨床実習Ⅳ-2	4前	8					○	5	3	1					
卒業研究	卒業研究	4後	2				○		5	3	1					
小計 (73科目)				108	16	0		-		5	3	1	0	0	兼38	
合計 (112科目)			-	121	68	0		-		5	3	1	0	0	兼90	
学位又は称号		学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業単位125単位以上。共通教育科目必修13単位、選択科目より4単位以上修得。専門教育科目必修108単位修得。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			1 5 週						
							1 時限の授業時間			9 0 分						

教育課程等の概要															
(リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア形成	あすなろう（初年次教育舎）	1通	2						2	4	1				
	地球環境・SDGs入門	1前	2				○			1				兼7 オムニバス	
	関連職種連携入門	1前		2			○			1				兼12 オムニバス	
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後	2				○							兼1	
	現代社会と倫理	1・2前	2				○							兼1	
	人間論と現代思想	1・2後		2			○							兼1	
	文学と言語	1・2前		2			○							兼1	
	生涯学習論	1・2前		2			○							兼1	
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○				1			兼1	
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1	
	法学	1・2前		2			○							兼1	
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1	
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1	
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○							兼1	
	多文化社会学	1・2前		2			○							兼1	
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1	
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1	
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1	
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1	
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1	
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1	
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1	
	地球環境科学	1・2後		2			○							兼1	
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1		
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1		
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1		
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼2	
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○						兼2	
	SDGs英語	2後		1				○						兼1	
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7 オムニバス	
	医学英語	2前		1				○						兼1	
	語学研修	1・2・3・4前・後		1					○					兼1	
	中国語	1前		1				○						兼1	
	韓国語	1後		1				○						兼1	
	日本語初級	1前		1				○						兼1	
	日本語中級	1後		1				○						兼1	
日本語上級	1後		1				○						兼1		
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2					○						兼8 オムニバス	
	データサイエンス演習	1後	1					○		2	4	1			
小計（39科目）		—	13	52	0			—		2	4	1	0	0	兼58

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	基本科目	人間関係論	3前	2			○			1						兼1	
		障害者福祉論	2前		2			○								兼1	共同(一部)
		レクリエーション論	3前		2			○			1					兼2	共同(一部)
		園芸療法実習	2前		2			○		1	1					兼2	共同(一部)
		園芸論	1前		2			○		1						兼1	共同(一部)
		園芸療法論	1後		2			○		1						兼1	共同(一部)
		ガーデニング	1後		2			○		1	1					兼2	オムニバス
		公衆衛生学	1後	2				○								兼2	オムニバス
	関連職種連携論	3前		2			○			1					兼10	オムニバス	
	人体の構造と機能及び心の発達	解剖学Ⅰ	1前	2				○								兼1	
		解剖学Ⅱ	1後	2				○								兼1	
		解剖学実習	2前	1							○					兼1	
		生理学Ⅰ	1前	2				○								兼1	
		生理学Ⅱ	1後	2				○					1			兼1	共同
		生理学実習	2前	1								○				兼2	
		人間発達学	1前	2				○								兼1	
		運動学	1後	2				○					1			兼1	
	運動学演習	2前	1					○				1			兼1		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2後	1				○								兼1	
		内科学Ⅰ	2前	1				○								兼1	
		内科学Ⅱ	2後	1				○								兼1	オムニバス
		老年学	2後	1				○			1					兼1	
		整形外科Ⅰ	2前	1				○								兼1	
		整形外科Ⅱ	2後	1				○								兼1	
		神経内科学Ⅰ	2前	1				○								兼1	
		神経内科学Ⅱ	2後	1				○								兼1	
		小児科学	2前	1				○								兼10	オムニバス
		精神医学Ⅰ	2前	1				○		1						兼1	オムニバス
		精神医学Ⅱ	2後	1				○			1					兼1	オムニバス
		感染予防・救急法	2前	1				○								兼1	
臨床薬学の基礎		3前	1				○								兼1		
画像評価学		3前	1				○								兼1		
リハビリテーション栄養学	3前	1				○								兼1			
疾病予防と健康管理	3後	1				○								兼1			
福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	2				○			1					兼1	オムニバス	
	リハビリテーション医療	1後	2				○			1					兼1	オムニバス	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	2			○				1						
		基礎作業学	1後	2			○				1						
		基礎作業学実習	1後	1							1						
		基礎作業学演習	2前	1				○								兼3	オムニバス・共同(一部)
		作業療法学研究法	3前	1				○		1							
		作業療法学研究法演習	3後		2				○		3	5	1				
	作業療法管理学	4後	2				○			1							
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	2前	2				○				1					
作業療法評価学演習Ⅰ		2前	1				○				1						
作業療法評価学演習Ⅱ		2後	1				○		1								
作業療法評価学実習		2後	1					○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	作業療法治療学	身体障害作業療法学	3前	2			○				1				兼1	オムニバス
		身体障害作業療法学演習	3前	1				○			1				兼2	オムニバス
		身体障害作業療法学実習	3後	1					○		2					
		精神障害作業療法学	3前	2			○			1						
		精神障害作業療法学演習	3前	1				○			1					
		精神障害作業療法学実習	3後	1					○		1					
		発達障害作業療法学	3前	2			○								兼1	
		高齢期障害作業療法学	3前	2			○				1					
		高齢期障害作業療法学演習Ⅰ	3前	1				○			1					
		高齢期障害作業療法学演習Ⅱ	3後	1				○			1					
		高次脳機能障害作業療法学	3前	2			○					1				
		高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1				○				1			兼1	オムニバス
		日常生活活動学	2後	2			○				1					
		日常生活活動学演習	3前	1				○			1		1			オムニバス
	義肢装具学	3前	2			○				1						
	作業療法技術学特論	4後	1			○				2	4	1			オムニバス	
	作業療法総合演習Ⅰ	1後	1				○			1	1	1			共同	
	作業療法総合演習Ⅱ	2後	1				○			1	1				共同	
	作業療法総合演習Ⅲ	3後		1			○				1					
	作業療法総括論	4後	1		1		○			2	5	1			共同	
	地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1			○				1					
		地域作業療法学演習	3前	1				○			2					共同
		地域作業療法学実習	3後	1					○		2					共同
		職業関連活動	3後	1			○				2					オムニバス
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1後	1					○		2	4	1			
		臨床実習Ⅱ	2後	1					○		2	4	1			
		臨床実習Ⅲ	3後	4					○		2	4	1			
臨床実習Ⅳ-1		4前	8					○		2	4	1				
臨床実習Ⅳ-2		4前	8					○		2	4	1				
卒業研究	卒業研究	4後	2				○		3	4	1					
小計 (77科目)		—	107	17	0	—	—	—	3	5	1	0	0	兼45		
合計 (116科目)		—	120	69	0	—	—	—	3	5	1	0	0	兼98		
学位又は称号		学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修13単位、選択科目より4単位以上修得。専門教育科目必修107単位修得。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(子ども学部 子ども学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2				○		2	7	2			兼7	オムニバス
	地球環境・SDGs入門	1前	2				○		1					兼11	オムニバス
人間・文化・科学	関連職種連携入門	1前		2			○								
	心理学入門	1・2後		2			○							兼1	
	現代社会と倫理	1・2前		2			○							兼1	
	人間論と現代思想	1・2後		2			○							兼1	
	文学と言語	1・2前		2			○				1				
	生涯学習論	1・2前		2			○		1						
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○							兼1	
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1	
	法学	1・2前		2			○							兼1	
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1	
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1	
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○							兼1	
	多文化社会学	1・2前		2			○							兼1	
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1	
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1	
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1	
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1	
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1	
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1	
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1	
地球環境科学	1・2後		2			○				1					
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1		
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1		
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1		
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼2	
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼2	
	SDGs英語	2後		1			○							兼1	
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7	オムニバス
	語学研修	1・2・3・4前・後		1					○					兼1	
	中国語	1前		1				○						兼1	
	韓国語	1後		1				○						兼1	
	日本語初級	1前		1				○						兼1	
日本語中級	1後		1				○						兼1		
日本語上級	1後		1				○						兼1		
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2				○							兼9	オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1					○	2	7	2				
小計（38科目）		—	9	55	0		—		4	7	2	0	0	兼54	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部基幹科目	子ども学総論	1前	2			○			2	1					兼3	オムニバス	
	学科基幹科目	教育基礎論	1前	2			○		1								
		保育原理	1後	2			○		1								
		発達心理学	1前	2			○		1								
		特別支援教育総論	1後	2			○		1	1						オムニバス	
初等教育学	(幼児教育)	教師論	2前		2		○		1								
		幼児教育課程論	2後		1		○		1								
		幼児教育方法論	2後		1		○		1								
		幼児理解の理論と方法	1後		1		○		1								
		保育内容総論	1後		2			○			1						
		保育内容指導法(健康)	2前		2			○			1						
		保育内容指導法(人間関係)	2後		2			○					1			兼1	
		保育内容指導法(環境)	2前		2			○								兼1	
		保育内容指導法(言葉)	1後		2			○					1				
	保育内容指導法(表現)	1後		2			○		1	1						オムニバス	
	(小学校教育)	教育行政学	3後		2		○		1								
		カリキュラム論	3前		2		○		1								
		教育方法の理論と実践	2前		1		○		1								
		ICT活用の理論と実践	2前		1		○		1								
		道德教育の基本と実践	3前		2		○									兼1	
		特別活動の指導	2前		1		○									兼1	
進路指導の理論と方法		3後		1		○									兼1		
生徒指導の理論と方法		3後		1		○									兼1		
教育相談の基礎と方法		3後		2		○		1									
特別の支援を要する子どもの理解		1前		1								1					
国語科指導法	2前		2		○						1						
社会科指導法	2前		2		○			1									
算数科指導法	2前		2		○			1									
理科指導法	2後		2		○				1								
生活科指導法	1後		2		○			1	1						オムニバス		
音楽科指導法	2後		2		○			1									
図画工作科指導法	3前		2		○					1							
家庭科指導法	3前		2		○									兼1			
体育科指導法	3前		2		○					1							
英語科指導法	2後		2		○									兼1			
総合的な学習の時間の指導	2前		1		○			1									
保育・教職実践演習(幼・小)	4後		2			○		1	2		1						
(特別支援教育学)	知的障害者の心理・生理・病理	2前		2		○						1			兼1	オムニバス	
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2後		2		○									兼2	オムニバス	
	病弱者の心理・生理・病理	2後		2		○									兼1		
	知的障害者教育	2後		2		○				1							
	肢体不自由者教育	3前		2		○				1							
	肢体不自由者教育の理論と実際	3後		2		○				1					兼1	オムニバス	
	病弱者教育	3前		2		○									兼1		
知的障害者教育総論	2前		2		○				1								
保育学	子ども家庭福祉	1後		2		○									兼1		
	社会福祉	3前		2		○									兼1		
	子ども家庭支援論	3前		2		○			1								
	社会的養護 I	1後		2		○			1								
	子ども家庭支援の心理学	3後		2		○			1								
	子どもの理解と援助	2前		1			○		1								
	子どもの保健	3前		2		○									兼1		
	子どもの食と栄養	3後		2			○								兼1		
	乳児保育 I	3前		2		○					1						
乳児保育 II	3前		1			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基幹科目	保育学	子どもの健康と安全	3後		1			○								兼1	オムニバス	
		障害児保育	2後		2			○				1				兼2		
		社会的養護Ⅱ	3前		1			○										
		子育て支援(基礎)	3後		1			○		1								
	教科・領域	国語	1前		2			○				1		1			オムニバス	
		社会	1後		2			○		1								
		算数	1後		2			○		1		1						
		理科	2前		2			○				1						
		生活	1前		2			○		1		1						
		音楽	1前		2				○		1							
		図画工作	1前		2				○				1					
		家庭	2前		2				○					1				
		体育	2後		2				○					1				
		英語	2前		2				○						1			
		幼児と健康	1後		1				○					1				
幼児と人間関係	2前		1				○											
幼児と環境	1後		1				○					1						
幼児と言葉	1前		1				○						1					
幼児と表現	1前		1				○		1	1								
実習	保育実習指導Ⅰ	2後～3前		2				○								兼1		
	保育実習Ⅰ(保育所・施設)	3前		4					○							兼1		
	保育実習指導Ⅱ	3後～4後		1				○								兼1		
	保育実習Ⅱ(保育所)	4後		2					○							兼1		
	保育実習指導Ⅲ	3後～4後		1				○								兼1		
	保育実習Ⅲ(施設)	4前		2					○							兼1		
	幼稚園教育実習指導	2～3通		1				○								兼1		
	幼稚園教育実習Ⅰ	2後		2					○							兼1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	3後		2						○						兼1		
	小学校教育実習指導	3前～4前		1					○		2	3	1			兼1		
	小学校教育実習	4前		4						○	2	2	1			兼1		
	学校体験活動	2通		1						○	1	1						
	特別支援教育実習指導	4通		1					○		1	2	1					
	特別支援教育実習	4通		2						○	1	2	1					
専門展開科目	子どもの表現と文化	子どもの文化	3後		2			○								兼1		
		ピアノ	1通		2				○		1					兼7		
		音楽(応用)	3後		2				○				1					
		図画工作(応用)	4後		2				○				1					
		体育(応用)	4後		2				○				1					
		音楽表現指導法	2前		2				○		1							
		造形表現指導法	2前		2				○				1					
	リズム表現指導法	2前		2				○								兼1		
	子どもの健康と福祉	環境教育論	2後		2				○				1					
		子どもの食育	3前		2				○								兼1	
子どものストレスマネジメント論		4後		2				○								兼1		
学校ソーシャルワーク		3前		2				○								兼1		
子育て支援	4通		2					○		1					兼1			
教科の演習	国語科演習	3後		2				○					1					
	社会科演習	3後		2				○		1								
	算数科演習	2後		2				○		1								
	理科演習	3後		2				○				1						
障害児の支援	視覚障害者教育総論	3前		1				○								兼1		
	聴覚障害者の言語障害指導	3前		1				○								兼1		
	重複障害者教育総論	3後		1				○								兼1		
	発達障害者教育総論	3前		2				○		1			1					
	子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)	1・2・3・4通		2					○	2	2		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ゼミナール	あすなろう（発展）	2通	2				○		3	6	2				
		子ども学演習	3通	2				○		4	7	2				
	卒業研究	卒業研究	4通	4				○		5	6	2				
小計（113科目）			—	18	185	0		—		8	7	2	0	0		兼40
合計（151科目）			—	27	240	0		—		8	7	2	0	0		兼94
学位又は称号		学士（子ども学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より8単位以上修得。 専門教育科目必修18単位、選択科目より89単位以上修得。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要														
(子ども学部 心理カウンセリング学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2					○		1	2	1	1	
	地球環境・SDGs入門	1前	2				○				1			兼7 オムニバス
	関連職種連携入門	1前		2			○			1				兼12 オムニバス
人間・文化・科学	心理学入門	1・2後		2			○							兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2			○							兼1
	人間論と現代思想	1・2後		2			○							兼1
	文学と言語	1・2前		2			○							兼1
	生涯学習論	1・2前		2			○							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後		2			○							兼1
	脳と認知科学	1・2後		2			○							兼1
	法学	1・2前		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2後		2			○							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2			○							兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			○							兼1
	多文化社会学	1・2前		2			○							兼1
	くらしと経済	1・2前		2			○							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2			○							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2			○							兼1
	生物と環境	1・2後		2			○							兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2			○							兼1
	統計学の基礎	1・2前		2			○							兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2			○							兼1
	地球環境科学	1・2後		2			○							兼1
健康スポーツ科学	1・2後		2			○							兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○						兼1
	SDGs英語	2後		1				○						兼1
	World Issues（世界事情）	1・2前		2			○							兼7 オムニバス
	語学研修	1・2・3・4前・後		1					○					兼1
	中国語	1前		1				○						兼1
	韓国語	1後		1				○						兼1
	日本語初級	1前		1				○						兼1
	日本語中級	1後		1				○						兼1
日本語上級	1後		1				○						兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2				○							兼9 オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1					○		1	2	1	1	
小計（38科目）		—	9	55	0	—			1	2	1	1	0	兼58

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部基幹科目	子ども学総論	1前	2			○			1			1		兼4	オムニバス	
学科基幹科目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			1	1				兼1		
	心理学概論Ⅱ	1後	2			○										
	子ども家庭福祉	1後	2			○										
	心理カウンセリング概論	2前	2			○			1							
	臨床心理学概論	2前	2			○			1							
	小計(6科目)	—	12	0	0	—			4	1	0	1	0	兼4		
専門基礎科目	心理学基礎科目	心理学研究法	2前	2		○			1					兼1		
		心理学実験Ⅰ	2前	2			○		1							
		心理学実験Ⅱ	2後	2			○		1	1						
		心理学統計法	3後	2			○									
		心理的アセスメントⅠ	3前	2			○			1						
	心理的アセスメントⅡ	3後	2			○							兼1			
心理支援基礎科目	カウンセリング基礎演習	1通	1				○					1		兼1		
	カウンセリング実践演習	2通	2				○					1				
	公認心理師の職責	3後	2			○										
	小計(9科目)	—	7	10	0	—			2	1	0	1	0	兼3		
専門教育科目	発達関連科目	命の尊厳	1前	2		○									兼1	
		現代社会と家族機能	1後	2		○									兼1	
		発達心理学Ⅰ	1前	2		○					1					
		発達心理学Ⅱ	1後	2		○					1					
		乳幼児心理学	1前	2		○									兼1	
		児童臨床心理学	1後	2		○							1			
		思春期・青年期心理臨床	2前	2		○							1			
	基礎心理学科目・医学関連	人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		知覚・認知心理学	2前	2		○									兼1	
		学習・言語心理学	2後	2		○									兼1	
		神経・生理心理学	2後	2		○									兼1	
		健康・医療心理学	3前	2		○									兼1	
		精神疾患とその治療Ⅰ	3前	2		○									兼1	
		精神疾患とその治療Ⅱ	3後	2		○									兼1	
	心理学・社会学・産業関連	社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会・集団心理学)	3前	2		○									兼1	
		社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族心理学)	3後	2		○				1						
		産業・組織心理学	3後	2		○							1		兼1	
		コミュニティ心理学	4前	2		○										
	地域協働関連科目	教育・学校心理学	3前	2		○				1	1				兼1	
		障害者・障害児心理学	3前	2		○				1						
		司法・犯罪心理学	3前	2		○										
		福祉心理学	3後	2		○				1						
		関係行政論	3後	2		○										
		こころと宗教(宗教学概論)	2後	2		○										
		人権論	2後	2		○										
		死生学	4前	2		○										
		学校ソーシャルワーク	4前	2		○										
		レクリエーション支援論	3前	2		○										
		レクリエーション支援演習	3後	2		○		○								
		子ども家庭支援論	4後	2		○										
子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)		1・2・3・4通	2			○		○								
														兼5		
	小計(32科目)	—	4	60	0	—			1	2	1	1	0	兼22		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	臨床応用心理学関連科目	心理学的支援法	2後	2		○			1									
		遊戯療法	2後	2		○			1									
		芸術療法Ⅰ（基礎理論と箱庭療法・コラージュ療法）	3前	2		○			1									
		芸術療法Ⅱ（心理劇の理論と実際）	3前	1			○		1									
		芸術療法Ⅲ（芸術療法の実際）	3後	2			○		1	1								
		臨床動作法の理論と実践	3後	2			○		1									
		認知行動療法	4前	2			○										兼1	
		感情・人格心理学	4前	2			○				1							
		精神分析学	4後	2			○											兼1
		子どものストレスマネジメント論	4後	2			○							1				
	心理演習	3通	2				○		2									
	心理学実践領域実習	心理実習	4通		2				○	2	1	1					オムニバス	
	心理学文献講読科目	心理学文献講読Ⅰ	4前		2		○			1								
		心理学文献講読Ⅱ	4後		2		○				1							
	カルチャーと心理関連科目	子どもの文化	2後		2		○										兼1	
		カルチャーと心	3後		1		○				1							
		アニメ・映画・絵本と心理学	3後		1		○			1								
	暮らしに潜む畏	1前		1		○			1									
キャリア教育科目	キャリアアップ講座Ⅰ	1通		1			○					1				兼1		
	キャリアアップ講座Ⅱ	2通		1			○					1				オムニバス		
	キャリアアップ講座Ⅲ	3通		1			○		1									
	キャリアアップ講座Ⅳ	4通		1			○		1									
	小計（22科目）	—	0	36	0			—	4	2	1	1	0		兼4			
ゼミナール	セルフマネジメントゼミナールⅠ	2前	1				○		2	1	1	1						
	セルフマネジメントゼミナールⅡ	2後	1				○		2	1	1	1						
	心理専門ゼミナール	3通	2				○		2	2								
卒業研究	卒業研究	4通	4				○	3	2									
	小計（4科目）	—	8	0	0			—	3	2	1	1	0		兼0			
合計（112科目）			—	40	161	0		—	4	2	1	1	0		兼83			
学位又は称号		学士（臨床心理学）		学位又は学科の分野				文学関係、教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より8単位以上修得。専門教育科目必修31単位、選択科目より76単位以上修得。（履修科目の登録の上限：46単位（年間））							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								

教 育 課 程 等 の 概 要														
（看護学部看護学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2				○		7	8	7	2		
	地球環境・SDGs入門	1前	2				○			1	1			兼7 兼9
	関連職種連携入門	1前		2			○		1	1	1	1		兼9 オムニバス
人間・文化・科学	心理学入門	1前	2				○							兼1
	現代社会と倫理	1前		2			○							兼1
	人間論と現代思想	1後		2			○							兼1
	文学と言語	1前		2			○							兼1
	生涯学習論	1前		2			○							兼1
	肥前の歴史と文化	1後		2			○							兼1
	脳と認知科学	1後		2			○							兼1
	法学	1前		2			○							兼1
	日本国憲法	1後		2			○							兼1
	グローバル化と異文化共生	1前		2			○							兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1後		2			○							兼1
	多文化社会学	1前		2			○							兼1
	くらしと経済	1前		2			○							兼1
	ジェンダー論	1後		2			○							兼1
	生命のしくみ	1前		2			○							兼1
	生物と環境	1後		2			○							兼1
	身近な生活の化学	1前		2			○							兼1
	統計学の基礎	1前		2			○							兼1
	身近な世界の物理学	1前		2			○							兼1
地球環境科学	1後		2			○							兼1	
健康スポーツ科学	1前		2			○							兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1	
外国語による コミュニケーション 理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼1
	SDG s 英語	2後		1			○							兼1
	World Issues（世界事情）	1前		2			○							兼7 オムニバス
	医療英語	2前		1			○							兼1
	語学研修	1前		1			○							兼1
	中国語	1前		1			○							兼1
	韓国語	1後		1			○							兼1
	日本語初級	3前		1			○							兼1
日本語中級	3後		1			○							兼1	
日本語上級	3後		1			○							兼1	
データサイエンスの理 解	データサイエンス入門	1前	2				○							兼9
	データサイエンス演習	1後	1				○		2	3	4	2		オムニバス
小計（39科目）		—	11	54	0	—	—	—	8	8	8	2	0	兼55

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎科目	いのちの科学	看護形態機能学Ⅰ	1前	2			○								兼1	オムニバス
		看護形態機能学Ⅱ	1前	2			○								兼1	
		臨床薬理学	2前	2			○								兼2	
		病態栄養学	1後	2			○								兼1	
		病理学	1後	2			○								兼4	
		病態治療学Ⅰ（呼吸・循環器）	1後	2			○			1					兼7	
		病態治療学Ⅱ（消化器・泌尿器）	1後	2			○			1					兼1	
		病態治療学Ⅲ（筋・骨格、感覚器、神経、難病）	2前	2			○			1					兼7	
		病態治療学Ⅳ（小児、産婦人科、精神）	2後	2			○								兼1	
	リハビリテーション学	3前		2			○									
	健康支援と社会保 障の仕組み	保健医療福祉行政論	2後	2			○			1	2		1			オムニバス
		公衆衛生学	1前	2			○			1						
		疫学	2後		2		○			1						
		保健統計学	3前	2			○								兼1	
	基盤看護学領域	看護学概論	1前	2			○			1		1				オムニバス
		看護理論学	4前		2		○			2	2					共同
		看護過程論	2前	2			○			1	1	2	1			共同
		フィジカルアセスメント	2後	2				○		1	1	3	1			共同
		生活支援技術論	1前	2			○			1	1	2	1			共同
生活支援技術論演習		1後	2				○		1	1	3	1			共同	
臨床関連技術論演習		2前	2				○		1	1	2	1			共同	
生活支援論実習		1後	1					○	1	1	2	1				
看護過程論実習		2前	2					○	1	1	2	1				
看護実践学領域		療養支援看護学概論	2前	2			○			2						オムニバス
	療養支援看護学方法論Ⅰ（急性）	2後	2				○		1		1				共同	
	療養支援看護学方法論Ⅱ（慢性）	3前	2				○		2						共同	
	看護診断論	2後		1		○			1							
	療養支援看護学実習Ⅰ（急性）	3後	2					○	1		1					
	療養支援看護学実習Ⅱ（慢性）	3後	2					○	2							
	高齢者看護学概論	2前	2				○		1	1	1				オムニバス	
	高齢者看護学方法論	2後	2				○		1	1	1				オムニバス・ 一部共同	
	高齢者看護学実習	3後	3					○	1	1	1					
	次世代育成看護学概論Ⅰ（母性）	2後	2				○				2					
	次世代育成看護学方法論Ⅰ（母性）	3前	2				○				2				共同	
	次世代育成看護学実習Ⅰ（母性）	3後	2					○			2					
	次世代育成看護学概論Ⅱ（小児）	2後	2				○			1	1					
次世代育成看護学方法論Ⅱ（小児）	3前	2				○			1	1				共同		
次世代育成看護学実習Ⅱ（小児）	3後	2					○		1	1						
看護統合学領域	地域支援 看護学群	地域在宅看護学概論	2前	2			○			1						共同
		地域在宅看護学方法論	3前	2				○		1	1					
		地域在宅看護学実習	3後	3					○	1	1					
		地域精神保健福祉看護学概論	2前	2				○			1	1				
		地域精神保健福祉看護学方法論	3前	2				○			1	1				
		地域精神保健福祉看護学実習	3後	2					○		1	1				
		公衆衛生看護学概論	1後	2				○			2					
	ヘルスプロモーション実習	2前	1					○		2		1			兼1	
	関連職種連携論	3前	2				○			4	1				兼6	
	家族看護学	2後	2				○			1	1				オムニバス	
	看護管理・ 教育学群	看護倫理学	2前	2			○			2	3	2				オムニバス
		看護教育学	4前		2		○			2		1				オムニバス
		医療安全管理論	1後	1			○			1		1				オムニバス
看護管理学		4前	1			○			1		1				オムニバス	
看護学統合実習	4前	3					○	1		1						
看護探求群	卒業研究方法論	3前	2			○			2	3	2				オムニバス・ 一部共同	
	卒業研究	4通	2				○		8	8	9					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	看護総合学領域 看護発展群	国際看護学	4前	1			○			1					兼1	オムニバス
		災害看護学	4前	1			○								兼3	オムニバス
		助産学概論	4前		2		○				2					
		健康教育学	3前		2		○				2		1		兼1	
		学校保健概論	2前		2		○				1					
		高度医療と看護	4後		2		○					1				
		補完・代替医療	4後		2		○					1			兼2	オムニバス
		養護学概論	2後		2		○				1					
	健康相談論	2後		2		○				1						
	公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護活動論Ⅰ	3前		2		○				2		1		兼1	オムニバス
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前		1		○				2		1		兼1	オムニバス
		公衆衛生看護方法論Ⅰ（技術演習）	4前		2			○			2		1		兼1	共同
		公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域診断）	4前		2			○			2		1		兼1	共同
		公衆衛生看護管理論	4後		1		○				1		1		兼1	オムニバス
		保健医療福祉行政展開論	4後		2		○				2		1		兼1	オムニバス
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（保健所）	4前		1				○		2		1		兼1	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（市町）	4通		3				○		2		1		兼1		
小計（72科目）		—	101	37	0	—	—	—	9	8	9	2	0	兼38		
合計（111科目）		—	112	91	0	—	—	—	9	8	9	2	0	兼88		
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件単位126単位以上。共通教育科目必修11単位、選択科目より6単位以上修得。専門教育科目より必修101単位、選択科目より8単位以上修得していること。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(デジタル社会共創学環)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）		
		地球環境・SDGs入門	<p>（概要）西九州大学のすべての学科の教員により、それぞれの学科の専門性に関連したSDGsとの関係を具体的に講義することで、一人ひとりがゴールに向けて強い意志と活動力を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（8 橋本 健夫／8回） 宇宙及び地球の誕生から現在まで、生命や人類がどのように誕生し、進化したかを全員で共有し、そのうえで現在の地球が抱える問題点やSDGsが誕生した各国の課題となっている背景について考える。また、ダイバーシティが進む社会におけるSDGsの意義を考える。</p> <p>（40 齋木 まど香／1回） 間違った知識やイメージにより、食品ロスが生じている中、食品ロスを削減するための正しい知識を紹介する。</p> <p>（32 占部 尊士／1回） 社会福祉分野にみるSDGsについて、実践事例やデータから考える。</p> <p>（7 菅原 正志／1回） スポーツは戦争を止める手段、ジェンダー平等を気づかせる等の力がある事を全員で確認し共有する。</p> <p>（39 小松 洋平／1回） リハビリテーション医療の視点からSDGsを達成できる行動について全員で考え、共有する。</p> <p>（10 草場 聡宏／1回） SDGs 17の目標中の「4. 質の高い教育をみんなに」に関係する10のターゲットについて調べ、自分自身の大学での学びや卒業後の進路との関わりについて考える。</p> <p>（30 赤川 力／1回） 心理的支援は、すべての人の健康と福祉に寄与し、すべての人の平和と公正な社会へ寄与できることを確認し共有する。</p> <p>（42 南里 玲子／1回） 看護職は健康課題を持つ人々に対し、ジェンダー平等やワークライフバランス等自身を守ることも大切にしながら、すべての人に健康と福祉をというゴールを目指していることを学ぶ。</p>	オムニバス方式
		関連職種連携入門	<p>（概要）多職種チームによる保健・医療・福祉や、教育の充実が求められる社会状況にあって、現場で働く専門職には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、他職種の専門性の理解と職務の関連性や連携の在り方の理解が求められる。そこで、本学で養成している各専門職についての基礎知識を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（16 葛原 誠太／3回） 保健・医療・福祉・教育・保育に関わる職種に何が挙げられるか調べ、関連職種連携の基礎について学ぶ。また、看護師養成の背景及び主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>（45 船元 智子／1回） 管理栄養士・栄養士養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>（24 草野 洋介／1回） 関連職種連携における医師の役割について、地域連携に焦点をあてて考える。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(35 岡部 由紀夫/1回) 社会福祉士・精神保健福祉士養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(37 加藤 稔子/1回) 介護福祉士・介護支援専門員養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(47 山口 裕嗣/1回) スポーツ・健康運動分野における有資格者養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(22 大田尾 浩/1回) 理学療法士養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(36 押川 武志/1回) 作業療法士養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(19 安藤(北村) 満代/1回) 公認心理師・臨床心理士養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(41 櫻井 京子/1回) 保育士・幼稚園教諭養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(43 久野 隆裕/1回) 小学校・特別支援学校教諭養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(48 南里 真美/1回) 保健師・助産師養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p> <p>(34 大家 さとみ/1回) 養護教諭養成の背景および主な役割と機能、関連職種連携における役割を考える。</p>	
人間・文化・科学	心理学入門	<p>心理学の成り立ちと様々な研究領域について網羅的に扱う。感覚・知覚、動機づけ、発達、教育、学習、思考、人格、適応等に関する基本理論や重要な研究成果について解説する。心理学、特に臨床心理学等の代表的な領域における基本理論を解説し、それらの知見が医療及び看護臨床に役立つことができるように具体的な例を提示して授業をすすめることで、心理学の歴史・特徴・記憶のメカニズム、人間の思考の特徴のメカニズム・確率判断の特徴・対人認知・対人関係の認知・集団の認知に関する機序・パーソナリティに関する理論、適応のメカニズム、各発達段階の特徴について説明できるようにすることを目標とする。</p>	
	現代社会と倫理	<p>科学技術の進歩は、伝統的な倫理観に対立する事象を多く生み出してきている。医療の分野における技術革新は脳死問題、生体臓器移植等々を生み出し、伝統的な生命観を超えた問題を提起している。環境問題についても課題は山積である。現代において倫理的問題を語ることの難しさを実感することが狙いである。SDGsとの関連についても理解を深め、伝統的な倫理説、科学技術の革新がもたらす新しいタイプの倫理問題、現代社会が抱えている倫理問題、法や規則によって解決できない問題について取り組もうとする姿勢を身につける。</p>	
	人間論と現代思想	<p>「人間とはなにか」という根本的な問題を西洋近現代の思想を通して探る。人間の尊厳や自立といった論点を理解するには根本的な人間理解が必要である。まずデカルトの「心身二元論」の理解及びその限界を明らかにする。また、統一的な人間像の把握へと進めながら、更に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の関連についても理解を深めると共に、デカルト的心身二元論、二元論的心身論の難点、二元論的人間理解の諸帰結、統一的な人間像について説明ができることを目標とする。</p>	
	文学と言語	<p>日本語の特性を知ることを出発点として、その日本語によって生みだされた（日本語に翻訳されたものを含む）文学を読み味わうための「読み方」を学んでいく。「言語」は必ずしも文字を必要とせず、無文字社会にも「文学」が存在するので、「文学（作品）」にも絶対に文字が必要というわけではない。それにも関わらず「文学」と言う語は、ヨーロッパ語では「文字」と言う語によって成立している。私たちに伝えられてきた「文学」がいかにか、「言語」の根幹である「ことば」に支えられて成立しているかを、言語芸術である「文学」テキストをもとにした、演劇、絵画、彫刻、音楽、映画など他の芸術作品との比較によって、「文学」における「言語」の重要性を考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯学習論	生涯にわたる学習機会の提供を図る生涯学習政策は、主として成人の学習の機会と場を保障することを目的としており、高齢社会においては団塊の世代などが地域社会で自己実現を図るための環境醸成が生涯学習の課題として認識されるようになった。講義では、生涯学習の基礎を取り上げるとともに、学習プログラムである学級・講座の在り方を理解し、また実際に授業でプログラムを企画する機会を設定する。このように研修・講座の在り方と運営方法を身につけることは、これからの教員や公務員、さらに企業（研修担当）でも活用できるので、実際の作業を通じて関係する知識・技術を身につける。特に学習プログラムと社会科・公民科等の学習指導案との共通点と相違点が理解できるようにする。	
	肥前の歴史と文化	この授業では、江戸時代の佐賀について学びますが、特に古文書を用いて論拠を示しつつ、佐賀、特に佐賀藩の特徴について講義します。また、地域の歴史や文化に関する情報について、ウェブを用いて収集・分析する方法も提示します。佐賀藩の特徴はどのようなものか、それはどんな古文書によって裏付けられているのか、理解してもらいます。またウェブによる地域歴史文化情報の取得について、その方法をマスターしてもらいます。各回古文書を提示し、その読み方、意味を説明します。そしてその古文書が佐賀藩のどんな特徴を示しているのか紹介します。	
	脳と認知科学	日常生活における意志決定や行動選択などを左右するのは脳である。認知に関わる脳機能について解説し、脳科学の考え方や最新情報を紹介する。また、脳卒中やパーキンソン病、認知症など、身近な疾患に関する脳科学について説明する。生活に関わりの深い脳科学について関心をもち、脳の機能・認知、高次脳機能、脳卒中やパーキンソン病・認知症に関する脳科学について理解する。学際的な分野である認知科学によって「脳」はここまで明らかにできたのか、伝統的な見解と対比しつつ、これからの発展とその課題について考えを深めたい。	
	法学	現代社会で自律的に生活するうえで、必要となりうる法的知識を講義します。授業においては、現代法の骨格をなす①公法（憲法）、②民事法（民法）、③刑事法（刑法・刑事訴訟法）の3つの法分野における法制度を解説します。これにより、自己の権利を適切に把握してもらうとともに、他者の多様性への寛容な態度を養います。授業目標は、法とは何か、現代法の基本的な体系、裁判の仕組みや裁判所制度、刑事法の基本的な理論および制度、民事法の基本的な理論および制度、公法の基本的な理論および制度について説明することができ、新聞等で取り上げられる法的な諸問題について、法（学）の観点から思索し、議論することができる。	
	日本国憲法	日本国憲法の各条文に込められた「思い」（立法者意思）を確認し、身近な出来事や日常生活で生じている問題等を交えながら、日本国憲法を学びます。幅広く日本国憲法の過去・現在・未来について、皆さんと一緒に考えてみましょう。この講義を通じて、我が国の最高法規から規範的な「ものの見方」を身につけるとともに、人権意識（守る、尊重しあう心）を高めていきましょう。本授業の目標として、日本国憲法や関連する各法律の仕組みや作用の基礎知識を理解できること。法的思考（リーガルマインド）を身につけること。法的に説得力のあるディスカッションができることです。	
	グローバル化と異文化共生	異文化共生の必要性と方法について学ぶ。グローバル化が進む現代において、異文化を理解し、共生を目指すことの重要性はますます高まっている。教養ある社会人の基礎力としての異文化、すなわち自分とは異なる文化や新しく出会う文化の知識を身につける方法を習得させ、異文化共生の必要性について把握させる。授業の目標は、異文化を理解することの重要性、異文化へのアプローチ方法、異文化と接触するとき起こり得る危険性や注意すべきことを予測、異文化に対する主体的な行動による積極的な相互理解、自文化の理解・異文化に対する発信による相手の理解促進、グローバル化の文化に対するメリットやデメリットの理解、現代において異文化共生の方法を考える。	
	文化人類学	グローバルな現代社会では自文化と異文化を理解し行動することが求められます。文化人類学は、文化の側面から人間とは何かを探り、その多様性と共通点を通して、多文化共生社会を築くヒントとなる学問です。この講義では、現代社会に文化的多様性を持たせるための基本的視座・理論・態度を習得することを目的とします。本講義では、文化人類学の誕生と展開過程を検討しながら、この研究領域がどのように発展し、またその発展がいかにか社会学をはじめとした隣接領域に影響を与えたのかを議論します。さらにこの研究領域の発展が、いかに植民地主義および脱植民地主義というプロジェクトと連動するものであったのかを考察します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	変わりゆく国際社会を生きる	本授業は、アジアを中心とした国際社会の在り方や、異文化の様態・多文化共生について学ぶとともに、「日本」や「九州・佐賀」を客観的にとらえる視点を養うものである。本授業は、SDGsに関する世界観、歴史観、倫理観について多種多様な視点から捉える力を養い、自ら考える力を身につけることを目的としている。授業の目標は、「他文化・異文化・多文化理解」を通して、「自文化（日本文化）の特質」がより分かるようになる。「SDGs」と「世界・アジア・日本および九州・SAGA・自分自身との共通課題」について理解できるようになる。国家・国境・民族・宗教といった垣根を越えて「国際人財」として活動するという欲求と動機を強化する。語学学習、海外留学、海外研修、国際的イベントなどへの関心度と参加意欲を高める。学外・地域・海外での国際的ボランティア活動やフィールドワーク調査やインターンシップ研修などに積極的に参加できるようにする。	
	多文化社会学	本講義では、近年の急激なIT化、少子高齢化、グローバル化など、国際的環境状況の変化によって、現代社会がどのように変化したのかについて社会的にアプローチする。これらの多様な文化・個性化現象の変化に伴う課題とその解決策について議論しながら、何よりも学生自身が主体的、自主的に考えられるように指導する。授業の目標は、現代社会の様々な具体的現象の変化を規則的、論理的に理解する。様々な具体的現象の背景にある本質的問題点を考察できる。具体的な問題解決のために必要な情報を収集・分析・整理できる。さらに収集・分析・整理した結果をグループディスカッションを行ったり、レポート作成ができる。他人の意見を尊重しつつ、かつ自分自身の意見をプレゼンテーションできるようにする。	
	くらしと経済	経済は我々のくらしに密接に関係しています。この講義では、経済のしくみをわかりやすく解説し、経済の変化が我々のくらしにどのような影響を与えるのかを考察していきます。また、授業の中で、基本的な経済用語や経済指標をわかりやすく説明し、話題になっている経済の出来事なども解説します。実際の経済ニュースも多数紹介します。授業の目標は、経済関係のニュースや新聞記事にでてくる頻度の高い経済専門用語を説明できる。代表的な経済指標を理解する。景気の状態が、どのようにくらしに影響するか説明できる。物価が変動するメカニズムを理解する等です。	
	ジェンダー論	「女（男）だから」と行動や生き方を制限されることによる人権上の問題は、現代も、世界各地で起こっている。「ジェンダー」概念は、この問題を解決するために不可欠である。本講義では、ジェンダーとは何か理解し、教育・労働・家族・グローバルイノベーション・ケア等現代社会の諸局面をジェンダーの視点から分析する。授業の目標は、ジェンダーおよびそれと関連する諸概念を理解し説明できる。ジェンダー形成に影響を及ぼす諸要因について理解し説明できる。ライフサイクルにおけるジェンダー問題について、分析・考察することができる。現代社会の諸問題についてジェンダーの視点から分析し、解決の方向性について考えることができる。ジェンダーについての学びから、人権についての問題意識を高め、考察することができる。学習した内容を整理し、レポートにまとめることができる。学習を通してジェンダーに敏感な視点を養い、人生に活かすことができる。	
	生命のしくみ	生命がどのようにして誕生したのか、生命とは何かという根源的な問いから、生命の発生、生命の多様性、これらの仕組みを理解する。最終的に、生命がどのようなものかを理解し、応用知識のベースを形成することを目的とする。授業の目標は、生物とは何かそれを理解するための生命科学の基本を理解できる。生命の設計単位について説明できる。遺伝情報（ゲノム）情報の使われ方について理解できる。複雑なからだのしくみがどのようにして形成されるのか理解できる。がんとはどのような現象かを理解できる。食餌と健康との関係について理解できる。病原体との関わりについて理解できる。環境との関連について理解できる。	
	生物と環境	現代において我々の健康や病気予防は環境や法制度と密接に関係している。本講義においては、我々の健康や病気の予防が、どのような環境や法制度と関係しているのかについて解説していく。授業の目標として、ライフステージごとの健康管理に関する法律について説明できる。医療法について説明できる。医療に関わる資格制度について説明できる。保健医療福祉施設について説明できる。福祉・高齢者に関わる法律について説明できる。労働に関わる法律について説明できる。食品管理に関する法律について説明できる。国際保健について説明できる。母子の保健について説明できる。介護保険制度について説明できる。	
	身近な生活の化学	私たちの身の回りの物質や現象を化学の眼で見つめ、これらが化学とどのように関係づけられるのかについて学ぶ。身近な事例を取り上げて、化学に対する興味・関心を高め、化学の果たす役割を理解し、化学的な思考ができるようになることをねらいとする。授業の目標は、身の回りの化学に対して関心を持ち、基本的な用語の意味を理解できる。生活の中の様々な事象と化学との関係を見つけ出すことができる。環境・資源・エネルギーの化学について例を挙げて説明できる。生命と健康の化学について例を挙げて説明できる。豊かな暮らしの化学について例を挙げて説明できる。身の回りの化学に対して関心を持ち、問題意識を持って取り組むことができる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統計学の基礎	統計は日常生活のみならず様々な科学的分野においても利用されている。データの特性を見出すための記述統計からそのデータの源泉を推測する推測統計の基礎理論や実際について学ぶことにより、適切な統計的手法の選択とその結果を分析する能力を育成することを目的とする。授業の目標は、各種統計データの収集・整理のための方法を理解し説明できる。各種統計データから必要な情報を導く統計的手法に関する基礎的概念の習得。確率論の基本を理解して説明できる。推測統計の基礎的概念を理解して利用できる。現実の統計データを分析して解説できる。	
	身近な世界の物理学	物理学は決して普通の人にとって難解な、また神秘的なものではありません。この授業では、自然現象のほか、身のまわりの家電、情報機器、医療検査機器などの動作原理を理解できる「物理的な」見方を基本にして、物理学を学びます。世界の見え方が変わります。授業で修得するのは、物理学の基礎である力学を理解し簡単な計算ができること。波動・振動の基礎を理解し、簡単な計算ができること。電磁気学および電磁波・光の法則を理解し簡単な計算ができること。生活家電・乗り物・スポーツ・情報機器・医療機器等の物理量についての具体例を学びます。	
	地球環境科学	環境の変化を科学的な視点から捉え、様々な地球環境問題について学習する。環境負荷の軽減について考える。授業で修得するのは、水について、化学的な視点から理解することができる。溶液の酸と塩基および環境中における酸性化について理解することができる。水質汚染と人間生活との関係について理解することができる。生活環境の保全および環境基準について理解することができる。大気汚染（酸性雨、光化学スモッグ、微小粒子状物質）について理解することができる。地球温暖化について理解することができる。異常気象について理解することができる。自然災害（地震、火山、台風など）について理解することができる。地球の成りたちについて理解することができる。放射能と放射線について理解することができる。地球環境と人間との向き合い方についてまとめることができる。	
	健康スポーツ科学	健康的な生活を実現するための知識や態度を身につけることを目的として、運動・栄養・休養などの観点から、健康に関する話題を提供し、現代社会の様々な健康問題やその対策について概説する。本講義の目標は、スポーツを取り巻く諸問題や「からだ気づき（ワークショップ）」を体験しながら身体のあり方について探求できるようになる。健康・運動・身体活動・コーチングに関する基礎的な事項を理解できるようになる。子どもから成人への身体の発育・体力・運動の発達過程に関する基礎的な事項を理解できるようになる。健康・体力・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる。各ライフステージでの健康課題について理解できるようになる。	
	フィットネス・スポーツ	本授業では、各種の運動、スポーツを通しての健康、体力の維持向上とともに、生涯を通しての健康、体力づくりが実践できる能力や態度を養うことをねらいとする。そのために、各種スポーツに親しみ、それに伴う体力や技術の向上心を養い、健康への関心を高める。授業で修得するのは、準備運動、整理運動の必要性を理解し正しく実践できる。各種スポーツのルールを理解しマナーをもって実践できる。各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。安全に気を配り他者への理解と配慮ができる。各種スポーツを通じて体力や健康への向上心をもつ。用具の準備や施設整備に積極的に参加行動する。個人やチームにおける各種スポーツの技術を高める努力をする。チームで協力し楽しくスポーツが実践できる。	
	ウェルネス・スポーツ	本授業では、これまでの運動やスポーツ活動と新たなスポーツを通して、生涯スポーツへつなげるために必要な知識や技術および態度を身につけることができるよう指導する。また、調べ学習の結果を発表するなど、自ら学ぶ態度の育成、さらに、健康づくりのために日常生活に活かせる運動への理解を高め、実践できる態度を養う。授業で獲得する能力は、各種のスポーツのルールを理解し説明できる。各自の体力や運動力に応じて実技を実践できる。安全に気を配り他者への配慮ができる。積極的に実技に参加しみんな楽しんでスポーツを行う。スポーツ（身体運動）を継続的・習慣的に実践する意識と方法を身につける。コミュニケーションをとり協力してスポーツが実践できる。	
二 ヶ 国 語 シ ョ ン に よ る 理 解 ミ ュ	英語コミュニケーション I	国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションできることを目標とする。英語コミュニケーション II との関連科目である。課題を聞いて、理解して、グループで話し合う方法により学習する。各動画から基本英単語を習得し、単語力の定着率を伸ばす。半期に二回、確認テストを実施して語彙力の定着を図る。動画の理解を図るための確認テストと毎週の課題で到達度を図る。授業で修得するのは、数多くの動画を見て一般知識や世界の情報を収集することができる。グループワークでコミュニケーションに必要な表現や単語を身につけることができる。オンライン教材を使うことによって上手に発音できるようになる。動画を通して異文化を理解する感覚を培うことができる。必要な基本英単語を身につけることができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーションⅡ	国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションできることを目標とする。英語コミュニケーションⅠとの関連科目である。従って、課題を解き、発表することが重要になる。まず、課題を聞いて、理解して、グループで話し合う方法や各人で取り組み、その結果を発表する方法を取る。動画を視聴する場合は、その中で使われている単語を習得し、単語力の定着を図る。その後、単語確認テストを実施して語彙力の定着を図る。これらに主体的に取り組むことによって目標の達成が可能になる。	
	SDGs英語	世界の様々な問題を解決するため、国連はSDGs (Sustainable Development Goals) として17項目を掲げている。このSDGsは世界各国の達成目標を掲げており、どの国もゴールに向けた活動を積極的に展開していかなければならない。本授業においては、英語を通して様々な問題(貧困、農業、環境、教育)について学びながら英語の4つの技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)の基礎知識を生かし、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。	
	World Issues (世界事情)	<p>(概要) この授業は英語で行われ、世界中の国々の重要な問題についての知識を得ることに焦点を当てている。様々な問題についてのレクチャーを受けた後、グループでその問題について話し合い、地域の問題と比較しながら解決策を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 園部 ニコル/9回) この科目の総合コーディネーター。学生はオーストラリア、世界時事問題、日本学などを学ぶ。</p> <p>(68 Derbel Mohamed Rami/1回) チュニジアの一般的な情報、文化、ライフスタイル、言語、環境、政治、時事問題を学ぶ。</p> <p>(65 Eric Raschke/1回) 北米の一般的な情報、文化、ライフスタイル、言語、環境、政治、時事問題を学ぶ。</p> <p>(66 Gareth Newbold/1回) ウェールズの一般的な情報、文化、ライフスタイル、言語、環境、政治、時事問題を学ぶ。</p> <p>(69 徳永 ヴェラ/1回) スロベニアの一般的な情報、文化、ライフスタイル、言語、環境、政治、時事問題を学ぶ。</p> <p>(67 Brown Patricia Sharon/1回) ジャマイカの一般的な情報、文化、ライフスタイル、言語、環境、政治、時事問題を学ぶ。</p> <p>(28 柳田 晃良/1回) 健康と栄養、現在の研究と世界のナッツに関する一般的な情報を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	語学研修	グローバル化する時代に生きる人たちは、日本だけでなく世界各国の人たちと自由にコミュニケーションをすることが求められる。本授業は、語学研修の目的で、海外で生活することによって様々な経験を積み、その過程で体験するコミュニケーションを通して、国際社会の理解を深めることや、言葉の使い方、表情の大切さを肌を通して学ぶ機会を提供する。具体的には、海外で数週間程度の研修等に参加し、語学、文化や海外事情等を勉強し、語学だけでなくグローバルな生き方を体感する。	
	中国語	お隣の国、中国は今や世界の大国になろうとしている。そして、世界の経済をも動かす力を持っている。従って、これからの社会においては、中国語を学び、それを自在に扱うことができれば、リーダーとしての役割を果たすこともできる。その一歩として、中国語の基礎的な力を身につけ、簡単な中国語の文章を理解し、話せるようになることを目標とする。社会人としての汎用的能力として中国語を読み、書き、話すことができるようになれば、素晴らしいと思う。	
	韓国語	現代のグローバル社会で共存していくために、色々な国の文化を学んで理解していくことは重要である。さらにその理解を深めるために言葉を学んでコミュニケーションを取ることは大いに役に立つ。ただ、日本ではお隣の国を十分に知らない人が多いと感じている。この授業では、日本から一番近い国、韓国を知り、理解を深めていくために文字を習得し、単語や簡単な文章の読み、書き、聞き取り、会話ができるようにする。更に簡単なあいさつや自己紹介の能力を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語初級	外国人の人たちにとって、日本語は非常に難しい言葉であるとの意見をよく耳にします。その意見に全く同感です。しかし、日本の社会に入ればその気持ちは薄れるのではないのでしょうか。まず触れることから始めましょう。この授業では、初級後半レベルの「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4技能を総合的に扱います。キャンパスライフを含む日常生活を円滑に行うために必要な運用力を養成するため、文法や表現を押さえながら、ペアやグループで話したりするコミュニケーション活動を中心に行います。さらに、短い文章を読み、それに関連した作文を書く練習を行います。	
	日本語中級	初級を受けて、本授業を展開します。初級のクラスでも行いましたが、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に扱うこととなります。ただ、難しさは増します。日常生活でよく使われる言葉から少し、難度の高い言葉へと移行します。その中で、日本語特有の文法に注目します。文章を読みながら、文法や表現に着目し、その用い方に注意を払って理解します。この中で、ペアやグループで情報交換や意見交換を行います。さらに、文章を読み、それに関連した作文を書く練習を行うこととなります。	
	日本語上級	中級を受けて、本授業を展開します。一般的な文章を読むのはもちろん作者の意見表明を伴った報告文や新聞記事、さらには専門的な内容の文章及び論文を読み、理解するとともに、作者の意見について自分の意見をまとめ、自己表現としての日本語を作成し、それを基にしたディスカッションを行います。授業が進むと、社会の中に存在する課題を取り上げ、自分の視点から、資料検索やアンケートを実施し、それをもとに考察を行って、課題解決に向けたプレゼンテーションを行うこととなります。	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	<p>●現代社会で急速に進んでいるデジタル・トランスフォーメーションについての理解をもち、データ・AIの利活用が具体的にどのようなように発展してきているかを知る。●正しくデータを読み取る力とそのために必要な統計学の基礎的概念を理解する。●表計算ソフトを用いて簡単なデータの集計や加工の方法を知る。●データ・AI利活用における留意事項と、データに関連する法律・規則を知る。●AIができることと、人でなければできないことを理解し、人としての能力開発を自ら自主的に行う態度を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 黒田 研二/1回) 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。</p> <p>(39 小松 洋平/2回) 社会ではどんなデータが集められ、どのように活用されているかを知る。さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る。</p> <p>(26 宮原 洋八/1回) 記述統計の基礎的な概念を理解する。</p> <p>(18 安部 恵代/3回) 変数間の関係(関連や相関)を調べる方法を学び、グラフによるデータ表現でデータを説明する力を身に付ける。</p> <p>(2 古賀 浩二/2回) 表計算ソフトでのデータベースの操作を習得し、データを扱う力を身に付ける。</p> <p>(29 横尾 美智代/2回) データ・AIを利活用するうえで知っておくべき心得、データを守るうえで知っておくべき留意点を学ぶ。</p> <p>(72 新井 康平/2回) データ・AI利活用の最新動向を知り、そのために使われている技術の概要を学ぶ。</p> <p>(74 立川 洋輝/1回) データ・AI利活用の最新動向について、事例を交えながら学ぶ。</p> <p>(73 木村 隆夫/1回) データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを学ぶ。</p>	オムニバス方式
	データサイエンス演習	授業の目標は、PCの操作になれて、MS-Word、Excel、PowerPoint を使えるようになる。Excelで、表の作成、データの並び替え、グラフの作成、簡単な計算ができるようになる。そのために、授業の中でAIが様々な分野で活用されており、自らの生活にも深く関与していることを、アクティブラーニングにより学生が事例として調べて発表しあう。AIは万能ではなく、その活用にあたっては人間中心の判断が重要であることや、公正性、プライバシー保護、セキュリティに関する課題があることを学生が具体的事例を調べて発表しあう。自分でテーマを決めて、統計を用いたデータを収集し、図表化、そこからわかる事柄の記述と考察を行い、発表しあう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会学・社会福祉学関連	社会福祉原論Ⅰ	多様な人々が自己肯定感をもって生活できる社会は、どの時代にあっても必要です。多様化する社会にあつて、福祉とは何かを考える一歩として本科目があります。本科目では、わが国の福祉政策と福祉制度の原理にかかわる理念ならびに根本概念について理解を深めるとともに、雇用、教育、住宅、所得、医療、介護、福祉サービス等の社会政策全般に関する知識を教授することをねらいとしています。この過程で、様々な事象を自分ごととして捉え、考えを深めていただきたい。	
	社会福祉原論Ⅱ	本科目は、原論Ⅰを受けての授業展開になる。つまり、原論Ⅰで獲得したわが国の福祉政策と福祉制度の原理にかかわる理念ならびに根本概念について理解の上に、社会で普遍的にみられる事象や施策を考えることになる。具体的には、雇用、教育、住宅、所得、医療、介護、福祉サービス等の社会政策全般に関する事象や施策を取り上げ、その狙い等についての知識をさらに深めるとともに施策のねらいやその次世代に向けた継続等について考え、意見を交わすことになる。	
	高齢者福祉論	本講では、高齢者を理解するために高齢者の特性、高齢者の生活を理解するためにその実態や取り巻く社会環境、また、高齢者福祉の歴史などについて具体的に考え、理解する。また、これらの改善にあたっては、行政の施策が問題となるため、高齢者を支援するための老人福祉法、或いは、高齢者虐待防止法など高齢者の支援に関する法制度、高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割などについて知識を広め、深い理解を行うこととする。	
	児童・家庭福祉論	本授業では、児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く環境に焦点を当てる。そして、日本及び世界における児童福祉の歴史、児童・家庭福祉に係る法制度、本領域における支援の仕組みと方法について具体例を挙げて講義を行い、その中の課題について、受講生間で話し合つて理解を深める。さらに、現代社会の中に潜む生活課題に対する適切な支援のあり方についても自分事として捉えて考察し、その結果をもとに意見交換を行う。	
	社会保障論Ⅰ	本講義は、様々な社会保障制度について正確に理解することを目指している。従つて、将来の個別相談援助に必要な知識を得ることはもちろん、社会と関わる中で、福祉制度をより良くしていく力を高めるために、社会保障制度の意義を理解する。さらに、各制度の構造を立体的に理解することのできる専門知識を聞き、自分事として考察を加える。また、医療保険・介護保険・雇用保険といった社会保障制度の解説を受けて、現在の保険制度の課題や在り方を考える。	
	社会保障論Ⅱ	本講義は、社会保障論Ⅰを受けて展開される。まず、福祉の仕事を考える広い視野を養い、社会保障制度の意義と構造を十分に理解するために、年金保険を中心とした社会保障制度に関する知識を得る。そして、制度の解説が可能になるように、その知識を深める。加えて、社会保険の補完的役割を果たしている民間保険についての説明を聞き、家庭で加入している民間保険について調べ、その役割を考察する。さらに、受講生同士でそれぞれの民間保険についての情報を共有し、意見交換を行う。	
	精神保健学Ⅰ	精神保健学は、広義に精神医学、精神障害者福祉学の内容を含み、身体的・心理的・社会的すべての次元と関わり、また、倫理的次元（人権）への配慮が不可欠という特徴をもっている。精神保健学Ⅰの達成目標を以下にあげる。精神保健の諸概念、精神保健の歴史・動向を理解する。精神保健の担い手と制度について理解する。家族をめぐる精神保健について考える（家族関係、出産・育児、介護、ひきこもり）。学校保健における精神保健の課題や対策を理解する。産業保健における精神保健の課題や対策を理解する。	
	精神保健学Ⅱ	精神保健学Ⅱでは、精神保健学Ⅰの内容を受けて、各論的に精神保健の課題を取り上げて論じる。授業の達成目標を以下にあげる。精神保健における予防の考え方を理解する。精神保健のトピックスについて現状と対策を理解する（災害支援、自殺、貧困、社会的孤立、性的マイノリティ、犯罪）。精神保健の個別課題について現状と支援のあり方を考える（認知症、嗜癖と依存症、発達障害、社会的ひきこもり）。精神保健における差別・偏見・スティグマについて考える。諸外国の精神保健について理解し日本の課題を考える。	
科学的介護論	科学的介護とは、蓄積した介護記録の情報を活用し、客観的事実に基づいた根拠や情報（エビデンス）を利用者に提供することを意味する。介護業界が提供する介護サービスのディスクロージャーには、医療業界のような根拠や客観的な情報などのエビデンス収集とその利活用が必須となる。授業では3つのセクションから、科学的介護の意義や方法論の進展について講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (37 加藤 稔子/5回) 科学的介護が必要とされてきた背景と現状について講義する。 (20 安徳 弥生/5回) 医療業界でのエビデンス収集、利活用の現状について講義する。 (33 江口 賀子/5回) 介護業界の現状、先進的な取り組み等について講義する。	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会学と社会システム	この授業では、現代社会で起きている様々な社会問題の背景や原因、構造や機能を理解する方法として、自己と他者、人間と人間、人間と集団・組織・地域・社会という「社会システムの一員」（社会的存在、関係的存在、相対的存在）として捉える。つまり社会のあり様を理解することは、すなわち自分自身を認識することである。私たちはこの自己認識を通して、さらに自分がこれからどんな地位-役割関係を演じなければならないかを知るのである。	
	社会調査の基礎	社会調査は、具体的なデータや社会的事実に基づく実証的・実践的・科学的な研究である。アンケート調査やインタビュー調査により、「調査票作成—実施—統計処理—データ分析—新事実発見—考察と分析—報告書作成」といったプロセスを通して、人々の意識・態度・行動や社会の仕組みや実態を捉え、さらに問題解決能力を身につける方法である。この授業では、社会調査の理論と実証と技能を学び、社会調査に必要とされる基本的な社会調査能力を醸成する。	
	アジアの社会と文化	中国、韓国、タイを中心に、アジア社会の現状について紹介する。アジアの社会・文化もグローバル化の波にさらされており、今後急速に変化していくことが予測される。しかし、その変化は、よい方向だけに向かうというわけではない。経済のグローバル化もたらす功罪、ポピュリズムの台頭がもたらす社会変化の多様化など不安定な要素が多く存在している。授業では楽観論だけでなく、不安定要素にも視点をおきながら、22世紀に向けたアジア社会の将来像について考察する。	
	ダイバーシティ論	ダイバーシティ（多様性）を認める社会の実現には、性別や人種の違いはもちろんのこと、年齢、性格、学歴、価値観、ライフスタイルなどの個性の違いを尊重し、偏見や差別意識にとらわれることなく、広く人材を受け入れる価値観や制度の改変が必要とされる。この授業では価値観の多様性、多様性を実現する方法について解説する。多様性を認めることの内には、自らをも相対化されるという自己矛盾を含んでいる。また、他の価値観を尊重することとそれを絶対化することとの違いも考察する必要がある。	共同
	多文化共生論	社会では多様化・多文化化が進み、多文化共生ということばを色々などところで聞くようになった。国境を越えたグローバルな動きは大きなエネルギーを生み出し、新しい文化を創造する。他方で、多様性に逆行するようなかたちで、自文化中心的思想の高まりも見られる。今後は多くの人が好むと好まざるとにかかわらず多文化で暮らすことになる。ダイバーシティ論などをとおして積み上げてきた知識をさらに高め、多文化共生社会で生きることの意味を考えてみよう。	
	NPO・NGO論	現代社会において、NPO・NGOは公的な機関の手が届かない様々な市民ニーズを支える重要な組織となっている。この授業ではNPO・NGOの歴史と現状を紹介するとともに、実際に活動している団体の活動を紹介することを通じてNPO・NGOの重要性について解説する。NPO論では、「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学ぶ。NGO論では、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。	
	フィールドワーク論	フィールドワークは、調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所（現地）を実際に訪れ、観察や聞き取り調査などをおこなう。調査・研究対象に即してその方法は多岐にわたる。この授業ではフィールドワークの具体例について紹介することを通じて、質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界を理解し、フィールドワークやインタビューを初歩的な形で実践できる基礎素養を身につけることを目指す。また、調査のモラルと倫理、責任について考慮できるようになることを目指す。	
心理学関連	発達心理学Ⅰ	本授業においては、人間の認知機能や感情・社会性等の心の発達にかかわる基礎的理論を学習すると共に、乳幼児期、児童期、思春期、青年期までの心理発達の特徴を理解する。その中で、人間の生涯全体を発達の視点で見通すための基礎的知識と考え方の手がかりについて概説する。授業形態は対面授業であるが、毎時間グループディスカッションを取り入れ、学校や社会の中での子どもの課題を臨床的に解決する能力を身につけてもらうことを目的とする。	
	発達心理学Ⅱ	本授業においては、発達心理学Ⅰで学んだ人間の認知機能や感情・社会性等の心の発達にかかわる基礎的理論に基づき、成人期、中年期、高齢期、超高齢期にわたる心理的な変化と発達課題について概説する。特に日本が抱える高齢化問題に密接に関連する「認知症」「老々介護」「独居老人」「障がい者の高齢化」などについて具体的なエピソードを交えて概説する。また、子どもの健やかな成長を見守る役割を持つ親世代、祖父母世代がいかに歳を重ね、その途上で心理的危機をどのように迎えるかについて解説を行う。各授業時間にグループディスカッションを実施、成人期以降の心理的課題について課題解決能力を養う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理学概論	本授業では、一人ひとりの心を理解するための臨床心理学について、その成り立ち（歴史的展開）と、臨床心理学の代表的な理論・心理学的支援法について学ぶ。臨床心理学の概要を理解するため、まず臨床心理学の定義・理念・体系を知り、世界や日本で臨床心理学がどのように発展してきたかを概説する。次に、精神分析や行動療法など、臨床心理学における代表的な理論・心理学的支援法について、さらに臨床心理学をどのように実践に役立てるのかを学ぶため、主な精神疾患や見立て・ケースフォーミュレーションに関する基礎知識を習得することを目的とする。授業はパワーポイントによる講義を中心に、毎回の授業のミニレポートを提出してもらい、次回に質問や感想についてフィードバックを行う双方向型授業である。	
	社会・集団心理学	人の心は、多かれ少なかれ、社会からの影響を受けて形づくられる。この授業では、社会が心に与える影響について心理学が明らかにしてきたことの大枠を学び、心理学をより専門的に追求していくための土台を構築していく。この授業で扱う範囲は、(1) 対人関係ならびに集団における人の意識及び行動についての心の過程、(2) 人の態度及び行動、(3) 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響についてである。社会心理学の基本的な研究知見を概観し、人の社会的行動の本質を理解することを目的とする。そのことを通して、他者や集団とのかかわりの中で人がどのように考え、行動するかを考える力をつけることを目標とする。また、授業期間中に数回、心理学調査を受けることで、社会心理学の知見がどのように生成されるかを体験的に理解を深め、課題発見力、論理的思考を身につけることを目標とする。	
	産業・組織心理学	産業・組織心理学は、人々が働くことを通じて経験する現象を心理学的視点から理解しようとする学問領域である。例えば「こんな（低い）評価をあんな上司がつけたのかと思うとやる気にならない」という私達がどこかで経験する現象は、公平性・リーダーシップ・モチベーションといった概念で説明することが可能である。本授業では、こういった産業・組織心理学の主要な概念について理解することを目的とする。授業では、人を人材として活用しようとする組織（主として企業）の観点と、より良く働こうとする個人（何を「良い」と考えるかは多岐に渡ります）の観点双方を意識し、各トピックについてレクチャーならびに議論していく。	
	乳幼児心理学	変化が大きい乳幼児期の具体的な子どもと保護者の事例を提示し、発達心理学の知見で解説をする。また、他者との関係の中で育つ子どもたちの発達のプロセスやメカニズムについて概説する。つまり、子どものイメージを持ちながら、乳幼児の情緒面、認知面、養育者や友だちとの関係性などの発達について説明する。また、乳幼児期の発達障害児や保護者への理解について、実践的な支援の方法を紹介する。本授業の目標を、以下に示す。 1. 乳幼児期の発達の基礎的な知識を理解する。 2. 乳幼児期の発達について保育者や保護者に適切に説明できる。 3. 乳幼児期の個別の発達に応じた支援の技術を理解する。 4. 乳幼児期の発達障害児や保護者への支援について知る。 5. 乳幼児期の子どもを育てる保護者への支援について関心を持つことができる。 6. 乳幼児期の保護者支援において、適切な支援方法を考えることができる。	
	高齢者心理学	高齢者心理学は、高齢者の心のあり方や高齢者が抱える心理的問題、加齢による精神機能の変化、長寿がもたらす心理学的要因、認知症に対する対処法などについて概説する。さらに、高齢者の心理や行動を理解して、必要な心理的援助方法なども学ぶ。この授業では高齢者の心に加えて、難聴や老眼など身体の問題、医療、介護、年金などの社会保障制度全般、高齢者に関わる法制度などの社会デザインについても基本的理論を概観する。高齢者心理学は、加齢による肉体的衰えによる心の問題だけでなく、認知症などの高齢者の疾病にともなう心理、高齢者と家族のつながり、介護支援者とのコミュニケーション、さらには発達心理学や臨床心理学など他分野との連携などについても触れ、高齢者が生き生きと暮らせる社会について受講者が創造できる力を培う。	
	福祉心理学	現代社会は、格差や貧困、障がい、虐待、高齢化、ジェンダーなど、多様な課題を有している。それら社会課題について、心理学的視点から実態を理解する。また、各省庁や企業などが提示しているオープンデータやベンチマークデータなど実用可能なデータを用いて、多様な人々を幸福に導く心理的対策について、受講者がプレゼンテーションを実施。聴者はそれをもとにディスカッションを行い、心理学的知見を用いた福祉分野の課題解決方法の基礎を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	仮想空間と心理学	<p>(概要) 「人間の心」を扱う心理学の分野で、近年バーチャルリアリティ (VR) や人工知能 (AI)、ビッグデータなどの新しいテクノロジーを用いた研究が始まっている。心理の分析に活用するだけでなく、近年は、マーケティングといったビジネス、心の治療といった心理療法にも活用がなされている。こういった『次世代の心理学』を学ぶための基礎知識を習得するとともに、VRやAI、ビッグデータを用いた最新の心理学研究論文を読み解き、研究の発展に必要な倫理性について受講者ととも考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(85 遠藤 利彦/5回) 心理学の分野で、近年バーチャルリアリティ (VR) や人工知能 (AI)、ビッグデータなどの最新のテクノロジーを用いた研究の動向について紹介、今後の心理学分野でのVR、AIの活用について受講者とディスカッションを行う。</p> <p>(11 利光 恵/10回) 心理学の諸課題解決に置いて、VR、AI、ビッグデータの活用方法について、研究計画を立案・発表する。同時に研究内でVRといった最新テクノロジーを用いる際に必要な倫理性について、受講者とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式
	心理学と社会課題	<p>(概要) 社会課題とは「一般層にまで知れ渡っている、社会システムの欠陥や矛盾から生じた解決すべき課題」である。環境、資源、経済、人権、文化、労働、教育、人口、医療、地域など様々な分野で課題が存在し、それらの課題は我々の生活や国家の発展に大きな影響を与える恐れがある。日本が抱える社会課題で代表的なものとして「貧困問題」「少子高齢化」「人材不足」「後継者不足」「長時間労働」「待機児童」「介護問題」が挙げられる。さらに新型コロナウイルスの世界的流行による影響を日本も受けており、医療崩壊やデジタル環境の脆弱性、教育格差の拡大などが発生している。こういった日本が抱える社会課題の実際について概説を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(86 保井 俊之/5回) デザイン思考とシステム思考は、社会課題発見や課題解決するために必要なスキルである。デザイン思考とシステム思考の基本的な考え方や両思考の基本的なツールや技法を理解する。</p> <p>(11 利光 恵/10回) 社会課題に取り組む場合、心理学の諸理論を活用して貢献や改善を行うのがひとつの方法である。受講生とともに、日本が抱える社会課題を解決するために心理学をどのように利活用するか、グループワークを中心にアイデアを立案・発表することを目的とする。</p>	オムニバス方式
	暮らしに潜む畏	<p>私たちの身の回りには、意識しなければ気づかず巻き込まれてしまうような犯罪が潜んでいる。インターネットやSNSを使用している際にアンケートへの協力を求められること、恋愛だと信じていた2人の中の言動、他者への優しさのつもりでの振る舞いが…。この授業では、普段の生活の中に潜んでいる犯罪という畏を紹介し、その心理的メカニズムや対策について講義を行う。さらに後半は、前半で扱った犯罪を予防するための取り組みを、受講生によるグループ学習によってアイデアを生み出していく。</p>	
	心理データ解析法	<p>心理学の多くの論文では統計解析が用いられる。社会課題の解決を裏付けるデータを分析する際も、心理学の論文を読む際にも、統計的な知識が必要であり、また広く心理学を学ぶ上においても、高度な統計解析を行うスキルを身につけることは必須であるといってもよいだろう。この授業では、統計パッケージSPSSとAMOSを用いて、心理学の研究に用いられる統計手法を一通り体験する。データの入力方法から、実際の論文作成に必要な、応用的な統計手法まで幅広く学ぶことを目的とする。</p>	
	フィールドワークスタディ	<p>この授業は「参加観察法」の形式で行われる。受講者(観察者)自身が、調査対象となっている集団の生活に参加し、その一員としての役割を演じながら、そこに生起する事象を多角的に、長期にわたって観察する。受講者自身が内部の一員として体験した意識内容を記録して、生態学的妥当性の高い現象把握をめざす。本授業では、交流的参加観察を現場で実施する。受講者が対象者とならぬか、やり取りをしながら観察する。受講者自身が研究対象となる人々や事象を身をもって知り、知り得た情報をもとに、現場が抱えている心理・社会的課題を解決するためのアイデアを、チームで立案しブレインストーミングを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化理解	異文化理解	本講義では、異文化理解の必要性と方法について学ぶ。グローバル化が進む現代において異文化理解の重要性はますます高まっている。異文化理解を、現代社会を生きるために必要なスキルとして身につける。多文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めるために、グローバルナショナリズム、歴史認識、国家、民族、社会正義、紛争問題、歴史認識、メディア、テクノロジーなどの、いくつかのテーマに触れながら、異文化とコミュニケーションについて学習する。	
	観光学入門	観光は、わが国の成長戦略の柱であり、地方創生の鍵であるとされています。本科目は、観光に関する基礎的な知識を習得し、観光を取り巻く状況について理解することを目的とします。担当者は、長年観光業界に身を置き、その長所や短所を見てまいりました。その経験から、授業では、観光学の幅広い範囲の中から、特に、旅行業、テーマパークなどの観光経営及び先端的な地域観光に関することをテーマとします。受講者は、実践的な課題に対し主体的に考え、グループワークなどに積極的に参加することになります。	
	日本文化理解	日本とはどのような国なのか、という問いに対して、ほかの国と比較し、日本文化を検討する。言葉・祭り・行事など様々な日本文化を紹介し、理解を深める。留学生は各国の文化・言葉・習慣などを紹介することを通じて、多文化や異文化に関する知識を身につけ、理解を深める。この授業は英語と日本語で行われる授業であり、母国語以外で日本文化を説明する契機ともなっている。外国語を用いて自国文化を説明することを通じてその難しさと楽しさをあじわってほしい。	
	観光ビジネス論	観光ビジネス全般に関して、その基礎的な知識についての講義を行うと同時に、地元の観光事業者への聞き取りや、実態の調査を行うことを通じて、観光ビジネスの実態把握を促し、観光事業への関心を持たせる。また、この講義を通じて、自分の考えをまとめたり、プランニングしたり、それらを説明する力をつけさせる。官公庁の管理職として勤務した経歴を活用し、観光政策や観光事業への取り組みを紹介する。地元の観光事業者への聞き取りや、実態の調査を行うことを通じて、観光ビジネスの実態を把握し、自分の考えをまとめたり、プランニングや説明する力が身につくよう講義する。	
	ホテルビジネス論	ホテル旅館などの観光産業における現場では、どのように業界課題、社会課題を解決しているか、高度経済成長が終わった日本で今後の観光のあり方はどうあるべきか等、幅広い視野で考えながら観光業についての理解を深める。嬉野温泉で一番長く続く温泉旅館の15代目として、13年以上観光業に従事している旅館経営者が、その経験を生かした講義を行う。地域資源を用いた持続可能な観光とはどうあるべきか等、観光業の視点から、地域が抱える様々な課題を幅広い視野で考察し、地域や観光についての理解を深めるための科目である。	
	旅行業務	現代において観光旅行は、国内外を問わず、生活の一部として必要不可欠なものひとつと考えられ、その時代により変遷を遂げてきた。本講義では、地域発着型ツアーを基本として、その旅程を管理するために必要な関係法令を理解するとともに、実務を身につけることを目的とする。また並行して、「国内旅行取扱管理者」資格試験の受験へ向けて、その旅程管理に必要な知識の習得及び現地視察を行うことにより、更なるスキルアップを図る。	
	マーケット論	旅行・交通関連業や地域観光における歴史的変遷と、大量消費の時代における業界の在り方や諸課題を踏まえ、顧客との長期的な関係を築くモデルを考えるという、マーケティング視点を理解する。そのうえで、今後の旅行・観光関連業の役割と、持続的な地域観光を実現するための要素について、最新のツーリズムを取り巻く環境やその取り組みの実例とともに考え、ディスティネーションにおけるマーケティングプランを創造できる提案力を養う。	
	TOEIC I	本授業ではTOEIC400点レベルの英文法・リスニング・読解能力を身につけることを目的とし、事前学習と授業、復習を繰り返す。英単語の小テストを毎回実施し、ポキャブラリーを習得する。個別に最適化された学びを促進するため、オンライン教材や語学学習アプリ等を活用し、効率的且つ満足度の高い授業を目指す。TOEIC400点を受講者全員が達成するために、受講生は自身の強みや弱みを理解し、目標を達成するための戦略を立てることが求められる。	
TOEIC II	本授業ではTOEIC550点レベルの英文法・リスニング・読解能力を身につけることを目的とし、事前学習と授業、復習を繰り返す。英単語の小テストを毎回実施し、ポキャブラリーを習得する。個別に最適化された学びを促進するため、オンライン教材や語学学習アプリ等を活用し、効率的且つ満足度の高い授業を目指す。TOEIC550点を受講者全員が達成するために、受講生は自身の強みや弱みを理解し、目標を達成するための戦略を立てることが求められる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Academic English I	本授業は留学先の大学で必要となる、ディスカッションやレポート作成、発表を英語で行うためのスキルを身につけることを目的とする。スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの4技能を向上させるため、受講生には課題と復習、ミニテスト等を用いて継続的な学びを習慣づける。受講生は事前・事後の学習を自主的に行い、留学後のスムーズな適応を目指す。レポート提出と英語によるプレゼンテーションを定期的に行い、実践力を身につける。	
	Academic English II	本授業はAcademic English Iの発展的科目として位置付けられる。留学先の大学で必要となる、ディスカッションやレポート作成や発表を英語で行うスキルを身につけることを目的とする。スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの4技能を向上させるため、教員による指導を行う。受講生は事前・事後の学習を自主的に行い、留学後のスムーズな適応を目指す。レポート提出と英語によるプレゼンテーションを定期的に行い、実践力を身につける。	
	グローバルスタディーズ	<p>(概要) 科目の目的は、世界のさまざまな地域の時事問題、現代文化と社会、日本との関係などについての知識を身に付けることである。さまざまな地域出身のネイティブ教員が学習、理解、議論をリードするオムニバス形式で担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 園部 ニコル/5回) 本授業科目の総合コーディネーター。受講生はオセアニア地域の時事問題について学習する。</p> <p>(68 Derbel Mohamed Rami/2回) アフリカ地域の時事問題について学習する。</p> <p>(65 Eric Raschke/2回) アメリカ地域の時事問題について学習する。</p> <p>(66 Gareth Newbold/2回) 欧州地域の時事問題について学習する。</p> <p>(67 Brown Patricia Sharon/2回) カリブ海地域の時事問題について学習する。</p> <p>(90 Mahmud Muhammad Al/2回) 南アジア地域の時事について学び、発見する。</p>	オムニバス方式
	グローバル経済とビジネス	この授業の目的は、グローバル環境での経済とビジネスについての理解を深めることである。学生は、世界におけるビジネスと金融トレンドとについて学習し、それらが日本や日本経済にどのように影響するかについて学ぶ。トピックには、起業家、中小企業、自営業が含まれ、国内外の事例を基に経済状況を俯瞰的に見る力を養う。グループワークとディスカッションを取り入れる。受講生は他者との考え方や価値観の違いに気づき、異文化理解力を獲得することが求められる。	
	グローバルリーダーシップ	本授業の目的は、地球市民となるために必要なスキルと知識を身につけることである。学生は、過去、現在、そして未来に向けたグローバルイノベーションについて学ぶ。根本的な目的は、学生がグローバルな舞台で競争するために必要な21世紀スキルを認識することである。取り上げるトピックには、グローバルリーダーシップへの文化的、政治的、地理的、人道的アプローチが含まれる。受講生は文化的背景が異なる他者との対話を通じて、多文化共生への理解とグローバル社会で活躍するための素養を実践的に身につける。	
	English Camp	約3日間の英語研修を実施する。研修期間中、参加者は英語のみを使用しコミュニケーションを取ることが求められる。研修内容はレクリエーションやグループによるプロジェクトである。研修参加者は教室で学ぶ英語と違い、日常生活における英語をネイティブの教員やサポーターとのやり取りの中で学ぶことが可能となる。英語漬けの生活を通じて、スピーキングの瞬発力を鍛えると共に異文化コミュニケーションへの自信をつけることを目的とする。	共同
	留学準備演習	本授業は海外留学を通じてグローバル人材となるための素養を育むことを目的とする。海外留学をするための準備として、海外留学先の文化や風習の理解と研修機関とのやり取りをする。また、研修先での取り組みをスムーズに実施するための語学力、プレゼンテーション力、レポート作成法を身につける。留学の意義を理解するために受講生間でのディスカッションを取り入れ、目的意識を持って留学するための演習を実施する。また、受講生はそれぞれの留学先で体験したいことや知りたいことをまとめ、充実した留学となるための計画を立てる。	共同
	留学	本科目は「留学準備演習」の受講後の海外での研修プログラムを通じて、実践的コミュニケーション能力を獲得することを目的とする。受講生は諸外国で実施される研修プログラムを通して、自分が設定した目標の達成状況を、留学前後の自身の経験と共に振り返り、将来に向けた目標の再設定を行う。受講生はそれぞれ留学先や体験内容が異なるため、留学プログラムの終了後は自身の体験報告を発表し、他の受講生や他学年の学生と共有する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ICT活用	情報メディア入門	<p>(概要) 学内コンピュータ並びに学生所有のコンピュータを効率よく倫理的に利用するための情報処理(ハードウェア、ソフトウェア)の概論を中心とした講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 古賀 浩二/8回) 前半でガイダンスとして、学内でのコンピュータ及びネットワークの利用を学習する。また、学内コンピュータの利用を通して、コンピュータの歴史と構成及びその性能、ハードウェアとソフトウェアの種類やその構成、OSの種類と機能、およびその操作を身に付ける</p> <p>(50 高元 宗一郎/7回) 後半において情報とコミュニケーション及びプログラミングの概要、情報のデジタル化とその操作を学ぶ。最後に情報ネットワークの概要と社会とのつながりを通して、現代社会へのコンピュータや情報処理システムの適用を理解し、現代社会における情報倫理と情報セキュリティの概要に触れる。</p>	オムニバス方式
	情報メディア演習 I	デジタル情報のメディアとして、文書作成のために必要となるワードプロセッサとプレゼンテーション資料作成のためのソフトウェアの利用を学習する。具体的にはワードプロセッサにおけるデータ(文書)の構成と機能概要を学ぶ。更に書式設定の範囲並びにその操作方法を身に付け、表や図形の描画方法を学ぶ。最終的には1枚から2枚程度のリーフレット作成を可能とするためのワードプロセッサの操作方法を身に付ける。プレゼンテーション資料作成に関しては、プレゼンテーション資料文書の構成とソフトウェアの機能を学び、表や図形、グラフなどを含む簡単なプレゼン資料の作成及びそれらを用いたプレゼンテーションが行えるスキルを身に付ける。	
	情報メディア演習 II	デジタル情報のメディアとして、データ処理とその可視化に必要な表作成ソフトウェアの概要と、簡単な操作を身に付ける。具体的には、表計算文書の構成と機能概要、取り扱うデータの種類の学び、単純な入力に加えて、データの自動入力、数式の利用などを通してデータの入力を行った簡単な表の作成(データ入力、罫線の描画や、着色)と操作方法を身に付ける。また、用途に応じたグラフの種類とその概要を身に付け、作成した表から用途に応じた簡単なグラフを作成するための操作方法などを身に付ける。	
	情報メディア演習 III	この科目は、文書作成ソフトの上級編となる。MOSのWord2019エキスパートの合格レベルのスキルを身に付けることを目標とする。具体的な講義内容は、文書のテンプレート管理(文書のバージョン管理、マクロ機能について)や編集機能(共同作業の設定等)、スタイルの作成及び管理、索引の作成及び管理、図表の作成及び管理、フォーム・フィールド・コントロール等の管理、マクロの作成・変更、差し込み印刷等である。これらを演習を通じて身に付ける。	
	情報メディア演習 IV	この科目は、表計算ソフトの上級編となる。MOSのExcel2019エキスパートの合格レベルのスキルを身に付けることを目標とする。具体的な講義内容はブックのオプションと設定の管理(共同作業ための設定等)やデータの管理(条件付き書式やフィルター機能等)、書式設定、高度な機能を使用した数式(論理演算やデータの検索、データ分析等)およびマクロの作成、高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理(グラフやピボットテーブルの作成等)の演習を行う。	
	情報数学入門	本講義では、高校での数学の復習・確認から情報分野で基礎となるn進法や補数、集合と論理、ベクトルと行列、行列式、ベクトル空間、線形写像、固有値など基礎的数学及びデータ分析の基礎となる確率や分布の形、t検定、分散分析、区間推計、回帰分析などについて取り扱う。グループワークによる演習を取り入れながら講義を進めていく。特に後半は、表計算ソフトや統計パッケージを利用しながら、数学的理論とデータ分析の実践の往還を行いながら、理解を深めることを目指す。	
	メタバース論	本講義では、ガイダンス・シラバス説明・メタバースの技術要素および利用技術の最新動向から始め、デジタルツインの動向、メタバースとWeb3.0、メタバースとブロックチェーン、分散アプリケーション、メタバースにおけるP2P、クラウドサービスによるメタバース、NFT、鑑定証明システム、エンターテインメントメタバース、デザインコラボレーションメタバース、インダストリアルメタバース、メタバースによる教育方法、その他のメタバース応用について先進事例を紹介し、その原理について平明に講義する。	
	メタバース演習	本演習科目では、ガイダンス・シラバス説明・メタバースの技術要素及び利用技術の最新動向から始め、仮想空間構築、アバター制作としての3DCG方法、Microsoft Mesh for Teamsによるメタバース演習、また、メタバースを用いた教育に係る演習をワールドクラフト等を用いて行う。さらに、メタバース技術の開発を行っている企業を交えた演習も行う。メタバースは未来社会の重要な手法であり、できるだけ実体験を行ってもらい、その有用性に気付いてほしい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データアナリティクス概論	本講義では、ガイドンス、シラバス説明、データアナリティクスの技術及び利用技術の最新動向をはじめ、データサイエンスの基礎として、データ収集、データ保存管理、データマイニング、データクレンジング・クリーニング、データ分析、ビッグデータ解析、データ可視化を平明に講義し、また、データアナリティクス及び人工知能の基礎として、生産性向上手法、経営分析、市場分析、SNS分析、トレンド解析、売り上げ予測、離反予測、在庫管理等の手法等について概説する。	
	情報ネットワーク論	本科目では、現実の社会で汎用的に用いられているネットワークを深く理解してもらうことを目標にしている。そこで、A/D変換、2進数と符号化、通信プロトコル、MACアドレスとスイッチ、IPアドレスとサブネットマスク、ポート番号とTCP、ルーティング、インターネットおよび情報セキュリティの概念や考え、世の中に存在する数多くの脅威、セキュリティを維持するためのフレームワーク（マネジメント）や基本技術・応用技術、セキュリティに関する法律など、多岐にわたる情報セキュリティの内容を俯瞰的に解説する。	
	情報ネットワーク演習	情報ネットワーク論で取り扱っていた内容を中心に演習課題を遂行する。A/D変換はアナログ画像や音声のデジタル化ツールを利用し、2進数と符号化についてはANSI文字コードを利用した日本語表現について、通信プロトコルについてはWebプログラミングを取り上げるとともに、MACアドレスやIPアドレス等については仮想サーバを利用する。インターネットおよび情報セキュリティについては事例探求を演習課題とする。実際に情報機器を操作することによって、確実に身に付くように展開する。	
	ソーシャルメディア論	もはや生活の一部となっているソーシャルメディアについて教授する。前半はソーシャルメディアの歴史を技術の発展とプライバシー問題などの法律の観点から学ぶ。次にソーシャルメディアの現在についてニュースメディアや広告、インターネット選挙運動の解禁などの観点から学ぶ。後半はソーシャルメディアを活用された具体的な事例を紹介しつつ、適宜グループディスカッションを交えながら進行する。最後に私たちが「発信者」の一人としてどうあるべきなのかグループディスカッションと発表をおこなう。	
	AIとビッグデータ論	近年、盛んに実社会に出てきたAI（人工知能）の歴史とその簡単な仕組みを学ぶ。また、AIの精度を上げるためには、ビッグデータを学習データとして使いこなすことが必要となる。本講義では、そのためのデータの収集方法、データ加工方法、分析方法について具体的な事例を上げて紹介していく。さらに、心理学・社会福祉学・医学分野でのAIを使った導入事例をいくつか取り上げる。具体的には音声分析を用いた感情解析などの事例を通してAIとビッグデータの活用方法について紐解いていく。	
	社会データ分析	本講義では、調査の目的や内容、対象などを検討する調査の計画から始め、個人情報の保護や倫理についても触れながら、調査の実施、集計、分析、報告書の作成まで一連の社会調査活動について演習を交えながら講義する。具体的には、調査計画の作成、調査の（模擬）実施、回収を経て、表計算ソフトを利用したデータのクリーニング、基本統計量の算出や結果の可視化などの記述統計、相関や差の検定、区間推計などの推定統計を行い、最終的に報告書の作成まで取り扱う。	
	社会データ分析演習	本講義では、「社会データ分析」の履修を前提に、オープンデータを用いて、表計算ソフトに加え統計ソフトRやPythonを利用して、テキストマイニングや多変量解析など、より実践的なデータ分析の手法についての演習を行い、探求的に報告書の作成及びプレゼンテーションまでを行う。講義の形態としては、実際に社会調査を受託している調査会社からゲストスピーカーを招くなど、社会とのつながりを重視し、少人数のグループワークによる演習を中心に進めていく。	
	デジタルユニバーサルデザイン論	ユニバーサルデザインとは年齢・性別・能力・体格などに関係なく、より多くの人ができるだけ使えるように初めから熟慮してデザインすることであるが、それはデジタルサービスでも必要である。まずユニバーサルデザインの歴史について学び、その概念を理解する。また、日本と海外のユニバーサルデザインに関わる法律、規格について学ぶ。具体的なデジタルユニバーサルデザインの事例について学び、理解を深める。デジタルユニバーサルデザインの新たな活用例を考えグループディスカッションと発表を行う。	
	コンピュータのための物理学	コンピュータ上でシミュレーションを行ったり、現実的なCGを作成する際に必要となる物理学に則した計算を教授する。まず物理シミュレーションの大まかな流れと種類を理解する。数学と力学の基礎としてベクトルと行列を理解する。そして実際にコンピュータで演算をする際に必要となる数値解析法を学ぶ。Excelを用いて実際に数値解析の問題を解き、理解を深める。その後、剛体シミュレーション、弾性体シミュレーション、流体シミュレーションで用いる物理学について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	映像制作の基本	デジタル画像（静止画）の歴史並びにその応用分野と効果などを学び、静止画や動画におけるデジタル化手法、データフォーマット、圧縮技術、映像表現の技法等を学ぶ。さらに静止画作成の手法、使用機器、作成工程、作成ツールなどを学習し、デジタル写真などラスタ画像の加工、CADなどベクター画像の作成・加工・編集を学ぶ。また、動画に関しても作成の手法、使用機器、作成工程、作成ツールなどを学習し、デジタルカメラやスマートフォンなどを使った簡単な動画作成技術や操作方法を学ぶ。	
	映像制作演習	映像制作の演習を通して、映像編集ソフトウェアの使い方、映像制作の基本技術を理解及び習得することを目的とする。具体的には、まず映像制作全体の流れを学び、個別の編集技術について学ぶ。単純な切り抜き・効果音の挿入・テロップ入れから、アニメーションの挿入方法等の演習を行う。また、様々な事例（テレビ番組やCM等）を参考に、制作技術について学ぶことも行う。最後に短時間の映像制作を課題として企画書とシナリオ、絵コンテ作成の準備段階、素材準備と編集及び仕上げの作成段階を学ぶ。	
	プログラム基礎論	実際の波形信号処理や、機械の操作を行い、プログラミングの文法の初歩から、基本的な構文、実用的な波形処理や機械操作のアルゴリズムについて学ぶ。第一部では、コンピュータの基礎知識として、オペレーションシステム、アプリケーション、ネットワークプログラムについて述べる。第二部では、プログラムに必要な、プログラムフローや、クラスとインスタンスについて述べる。第三部では、波形信号処理、機械やモータの操作を行い、プログラミングの理解を深める。	
	アルゴリズムとデータ構造	本授業では、コンピュータの活用を図るための基本的な考え方を理解することが目的となる。コンピュータを使って大量のデータから問題の解決を図るには、問題解決に適したアルゴリズム（機械的な手順）とデータ構造（データの保存形式）が必要である。ここでは、アルゴリズムとは何か、データ構造とは何か、から始め、データの探索（2部探索、線形探索）・整列（バブルソート、ヒープソート）・走査といった基本的なアルゴリズム及びそれに付随するデータ構造を学習する。	
	リモート学習支援技術	情報通信技術を活用したリモート学習支援について、その背景にある学習理論や学修成果の評価方法などの理論的枠組み・考え方、リモート学習支援に必要な技術的知識や実施に関わる専門家の役割について紹介し、実際に教育現場や職場環境において、これらの技術を応用するためのスキルを身に付けることを目的とする。具体的には、リモート学習支援に活用可能なシステムを使った学習（支援）の運用・技術・操作などに関する基本的内容を習得し、実際にリモート学習支援システムを利用したディスカッションやプレゼンテーションの体験を通して、リモート学習支援に関わる上で必要な知識と理論的枠組みを身に付ける。	
	e-sports論	<p>（概要）健康状態や障害及び年齢に関係なくすべての人が平等に楽しめるユニバーサルe-sportsを集団及び個別でのコミュニケーションや医療・福祉現場で応用するための基本的スキルについて学ぶ。</p> <p>前半は、健常者及び障害者がe-sportsをプレイする際に注意すべき心身への影響について教授する。後半は、障害別に応じたe-sports用の福祉コントローラーの活用方法について体験を通して教授する。また、実際の医療福祉分野でのe-sportsの活用事例についても教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（13 植田 友貴／10回） 健常者や高齢者及び障害児（者）が共通して行えるユニバーサルe-sportsの基本理念や、地域社会・医療・福祉・プロスポーツ分野での活用及び応用方法について教授する。</p> <p>（4 小浦 誠吾／5回） 世代を超えたe-sportの可能性と医療福祉分野におけるe-sportsの現状と今後の変化の可能性について、国内外の事例をもとに教授する。</p>	オムニバス方式
	e-sports演習	健康状態や障害及び年齢に関係なくすべての人が平等に楽しめるユニバーサルe-sportsを集団及び個別でのコミュニケーションや医療・福祉現場で応用するための実践について演習を通して学ぶ。特に、障害者に対するe-sports支援の実際を学ぶため、高齢者疑似体験キットや片麻痺体験キットなどを利用することで障害を体験しながらのe-sportsのプレイ方法の演習も行う。また、障害のある方向けの入力デバイス開発について3Dプリンターを活用した演習も行う。	
	ウェブコンテンツ演習	福祉関係（高齢者支援、障害者支援など）向けのWebサービスをローンチするために、必要な知識、技術の習得（体験）を目指す。前半はインターネットやWebサーバーなどのインフラの説明から、Webサービスの仕組み、サービスの企画の方法、開発の方法、言語、運用方法について講義を行う。後半はグループ別で福祉向けのWebサービス内容を企画し、実装の方法を考えてみる演習を行う。最終回は各グループ毎に企画したWebサービスのプレゼンテーションも実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グラフィックデザイン演習	主に静止画の作成や加工の技術を身に付ける。具体的には、デジタルカメラの利用を通してレンズや光と色、構図など、撮影の基本スキルを身に付ける。また、ラスターデータ画像としてのデジタル写真の編集・加工の仕組みを学び、画像編集ソフトを利用して、ラスターデータ画像の編集スキルを身に付ける。更にベクター画像の特徴や方法などを理解し、2次元ベクター画像の作成スキルを身に付ける。課題として画像編集ソフトウェアを利用した画像の制作を行い、作品に関する相互評価のためのプレゼンテーションの機会を設け、互いに作品に関して考察を行う。	
コミュニケーション	文字と言葉	本科目は、コミュニケーションの重要な地位を占める文字と言葉の関係を深く理解することを目的としている。言葉は、音声による場合と文字による場合がある。両者の特徴を理解して、意図的な活用をすることによって、コミュニケーションを操作することが可能となる。その事例を過去現在から収集して観察し、分析する。上記に倣って、自分自身の事例を分析し、口頭発表を行い、クラス全体に提供して協議する。後半部では、これからの社会生活における、文字によるコミュニケーションを意図的に行うための演習を行う。	
	音楽とコミュニケーション	多文化共生社会において、いとも簡単に文化的差異や言葉の壁を乗り越える一つの手段として、音楽があります。音楽による国際交流をする中で、共感し、友情を育む場面に多く出逢いました。研ぎ澄まされた感性は、世代に関係なく人々に届き、ある時は閉ざされた人の心に寄り添うこともできます。それぞれの時代によって変遷してきた音楽を辿りながら、音楽による対話を、実践例とともにみなさんと一緒に考えるとともに、学生の皆さんからの提案をもとに一緒に考える授業にしたいと思います。	
	デジタル・コミュニケーション支援学概論	<p>(概要) 後天的な身体障害や、重度心身障害など先天性の障害がある人々であっても、PC・タブレット・スマートフォン等のICTデバイスを活用してコミュニケーションや学習・就労を実現するための支援方法の基礎を学ぶ。前半は、各種心身障害の概要及び就労就学のポイントについて教授する。後半は、各障害者のコミュニケーション障害とICT活用による支援方法の基礎、Operating System別の標準アクセシビリティ機能の概要について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 植田 友貴/10回) 各種障害があってもICT機器を活用しコミュニケーションをとるための手段及び支援方法を教授する。各種障害の概要を説明した後に、実際の支援事例を交えてディスカッションを行いながら学んでいく。</p> <p>(4 小浦 誠吾/5回) 医療福祉分野、高齢者の地域支援分野及びスマート農業におけるICTを用いたコミュニケーションについて事例を交えて紹介する。</p>	オムニバス方式
	デジタル・コミュニケーション支援学演習	身体障害や、重度心身障害など先天性の障害がある人々であっても、PC・タブレット・スマートフォン等のICTデバイスを活用してコミュニケーションや学習・就労を実現するための支援方法の実際を学ぶ。前半はOperating System別の標準アクセシビリティ機能、各種障害別の活用方法について実技を通して学ぶ。後半は障害者用に開発され障害者総合支援法にも規定されている重度障害者用意思伝達装置、携帯用会話補助装置、情報通信支援用具など障害者用ICT機器の活用方法についてグループワークによるディスカッションを通じて学ぶ。	
	デジタル・コミュニケーション支援学特論	<p>(概要) 身体障害や、重度心身障害など先天性の障害がある人々であっても、PC・タブレット・スマートフォン等のICTデバイスを活用してコミュニケーションや学習・就労を実現するための支援方法について、Project Based Learning (PBL) を用いた学修を行う。PBLは、医療・福祉現場より問題提起をしていただいた課題に対して、グループワークを通してICTを用いた活用方法を提示していく。また、医療福祉現場に向いて実施する現地でのPBLも予定している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 植田 友貴/10回) 神経難病や重度心身障害児及びその他の心身疾患に対するICTの利用状況について事例を通して学ぶ。その後、医療福祉・在宅療養・就労支援の現場での見学及びPBLを実施する。</p> <p>(4 小浦 誠吾/5回) 原因不明の疾患や治療困難な神経疾患や脳疾患の治療方法として医療分野から広がったとされるブレインテックに関して、その背景や広がり可能性について探求する。また、睡眠など生活支援に関わるデジタル・コミュニケーションとしてのブレインテックを理解する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	プレゼンテーション論	本科目は、まず講義により原稿、スライド資料作成等プレゼンテーションの基礎を言語表現・非言語表現というスキル別に理解する。次に、実際に作成したプレゼンテーションを人前で発表する実習を行う。ループリックを用いたピア・レビューを取り入れたアクティブラーニング形式の授業とする。本科目を通し、社会人基礎力として必要な「発信力」、人前で自己表現し相手に伝えるという実践的なプレゼンテーションスキルの知識を身につけることを目的とする。	
	テレコミュニケーション倫理	近年急速に普及してきたICTを活用した遠隔（テレ）コミュニケーションは場所と時間を選ばない非常に便利な道具である。この授業ではそのメリット・デメリットについて具体的に解説するとともに、共通感覚（常識）の成立過程を手掛かりに、遠隔コミュニケーションが私たちに要求する様々な倫理的態度について考察する。道具の利便性の向上は私たちに益をもたらすだけのものではない。不便さゆえに私たちが無意識のうちに用意していた倫理的配慮、道義的責任などを新たに意識化する必要が生じてきた。講義ではテレコミュニケーションという技術が一般化されても忘れてはならない道徳的・倫理的な課題について考えていく。	
	教育とコミュニケーション	本科目は、コミュニケーションの基盤となる力が、高等学校までの教育の場で活用され、育成されてきたことを認識し、更なるコミュニケーション力の向上に向けた学びへの動機づけを行うことを目的としている。まず、高等学校までの教育を振り返り、教育の営みや教員の役割を認識するとともに、教育の過程に必要な聞く力、見る力、考える力、まとめる力、そして、発信する力などがコミュニケーション力を構成することを理解する。次に、それぞれの力をどのように磨けば、コミュニケーション力の向上につながるかを考察する。加えて、障がいがある人とのコミュニケーションについての留意点を理解し、想定する。そして、人を育てる立場になった時に必要なコミュニケーション力の発揮について議論し、自分を高める工夫を考え、振り返ります。	共同
	身体コミュニケーション	本科目では、対人関係の土壌を成してコミュニケーションを特徴づける、身体の様々な働きに着目する。社会的な生き物として実体をもつ存在同士が関わり合うとき、各々の身体が表出し、互いに感心し反応し合っている精妙な調整機能を軽視することはできない。本科目は体験実習を軸としたワークショップ形式で実施し、受講者が自身に生じる現象を丁寧に振り返るとともに、自分の身体コミュニケーションの傾向を日本文脈で吟味する機会を含める。	
	レクリエーション支援論	<p>(概要) 本学科では、まず、レクリエーションという言葉の主旨(目的)が「心を元気にすること」であることを理解させる。その上で、それを実現するための手段であるレクリエーション活動を有効に活用するためのコミュニケーションと信頼づくりの理論とこの理論を実際に活用するレクリエーション活動のあり方、さらにはそれらを支援する側(支援者)に求められる能力について解説する。なお、関連科目である「レクリエーション支援演習」の基礎と位置付けて教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 山田 力也/2回) レクリエーション運動の歴史の変遷と現代社会における余暇やレクリエーションの持つ意味を含むレクリエーションの基礎理論を紹介する。</p> <p>(100 森 恵美/13回) レクリエーション活動を有効に活用するためのコミュニケーションと信頼づくりの理論と能力を解説する。</p>	オムニバス方式
	レクリエーション支援演習	<p>(概要) 本学科では、「レクリエーション支援論」で学習した内容を基に、コミュニケーションと信頼づくりに必要な能力を習得させ、レクリエーション活動現場などにおいて支援ができるように教授する。具体的には、レクリエーション活動を自ら楽しみ、積極的に行うことができるように導いた後、支援者として対象と目的に応じたコミュニケーション・ワークの選択や、多様な素材(ITを含む)をアレンジし活用することができる能力を養い、あらゆる場面で活躍し得る能力を身に付けさせることを目標として授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 山田 力也/2回) レクリエーション活動を自ら楽しみ、積極的に行うことができるように多様な素材を紹介し実践させる。</p> <p>(100 森 恵美/13回) レクリエーション活動を支援する立場として、対象と目的に応じたコミュニケーション・ワークの選択や、多様な素材(ITを含む)を実際にアレンジし活用する技術を身に付けさせる。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題 探究	地域デザイン論	<p>「地域デザイン」という概念は、現代につくられたものですが、その源泉はヨーロッパルネサンスに辿ることができます。本授業では、まず、「デザイン」の概念の誕生を15世紀のイタリアルネサンスに求め、ルネサンスの人々が考えた「地域デザイン」について紹介し、受講生の理解を深めます。その後、「デザイン」の概念は変化していききましたが、その変化の背景を歴史的、美術的に探っていきます。ヨーロッパの事例の他に、東南アジアの事例も扱う予定です。このようにして、「デザイン」の多様な意味を探り、「地域をデザインする」とはどういうことかを歴史的に考えてもらいます。次に現代の国内外の地域デザインの事例を紹介し、これらを通して、さいごには受講者一人一人に身近な地域を題材として、「地域デザイン」を考えてもらいます。</p>	
	地域の食産業	<p>(概要) 農業、食品産業等における現場では、課題をどのように解決しているか、あるいは新しい食産業のあり方はどうあるべきか等、幅広い視野で考えながら地域の食産業についての理解を深める。地域の食産業の現状と課題を、行政、研究、あるいは企業の立場からゲストスピーカーが講義する。本科目は地域志向科目となります。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 安田 みどり/8回) 大学発食品の開発(ひしぼろの開発)を紹介しながら、地域資源を把握し、食産業への活用方法について教授する。また、地元の食材を用いたバーチャルな商品開発を行う。具体的には、グループにて企画書の提案、中間報告、最終プレゼンを行う。</p> <p>(102 西山 慧/1回) 食産業を支える技術について学ぶ。具体的には、地元のいちご(あまおう)などを用いてジャムにする技術、その際に苦労した点などについて紹介する。</p> <p>(103 有岡 大介/1回) 地元のものを使って商品開発し、プロモーション、販売促進、海外展開まで行う、商品の総合プロデュースの方法について学ぶ。また、ヒットさせるための仕掛けについて紹介する。</p> <p>(104 横尾 敏史/1回) 儲けるための商品作りについて学ぶ。原価計算を行い、売価を決定するやり方を学び、どうすれば儲けることができるのかを教授する。</p> <p>(105 岡田 英明/1回) 売り方の戦略、つまり、商品の流通方法、マーケティングについて学ぶ。中身が同じ商品でも、ターゲットや販売先を絞ることで売れる商品になることを紹介する。</p> <p>(106 木原 寛幸/1回) 商品開発の現場を具体的に説明する。飲料メーカーからOEMとして受注が来た際の商品の提案から製造までについてリアルに紹介する。</p> <p>(107 桂城 博行/1回) 県内の食品事業者への支援事例を県としての立場から紹介する。現場から見てきた課題を解決するために、様々な提案や支援を行い、事業者をバックアップする方法について学ぶ。</p> <p>(108 上向 光予子/1回) 女性ならではの発想で商品作りを行っていることを紹介する。6次産業についても、最近始めたえごまの生産から販売までの実例を含めて説明する。</p>	オムニバス方式
	食品栄養学	<p>人は多くの食品を日々利用することにより、活動し健康を維持している。今日の長寿社会において長く活躍する為には、食品や栄養の知識が極めて重要である。授業では、食品成分の持つ栄養素の機能、感覚に与える機能、健康の維持に関わる機能を体系的に学習する。そして、様々な食品について、地域特性、栄養素の種類や含量、体の中での働き、健康との関わりについて学習する。また、食品の生産や加工は、地域の経済活動とも深く関わっている。地域の食産業の振興、地産地消、食品ロス、食の安全性など、食品に関係する今日的課題についても学ぶ。</p>	
	ボランティア活動	<p>ボランティア活動は本来対価を求めることのない互酬性にもとづいた人間活動であるが、あえて単位(対価)化することによって、地域でのボランティア活動に向かう契機とする。活動を継続することによって相互に恩恵を与え合う活動であることを学んでいく。PBL演習等でかかわる企業や自治体、地域社会とのラポール形成のための活動の場としても位置付けている。ボランティア活動を通じて様々なステークホルダーの方々と円滑に交流ができる対人スキルの向上も目指してほしい。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インターンシップ	課題解決型インターンシップをおこなう。地域の自治体・企業・NPO等から課題を頂き、それに取り組む中長期型のインターンシップである。活動に向かうマインドセットから成果発表までを行う。本講義は、講義（事前・事後指導）と就業体験によって構成される。このうち、就業体験では、原則として長期休暇期間を利用して、企業や自治体での就業体験を行う。活動を通じて課題解決に向けた取り組みを実施するとともに、相手機関の仕組みや、仕事の流れ、職場における人間関係などの理解も深める。なお、インターンシップの期間は最低5日以上実施すること。講義では、企業課題の検討およびインターンシップ先に提出する書類の作成、就業体験活動後の報告会用の資料作成の指導を行う。	
	PBL特別演習	本科目は、教員等によるレクチャーやフィードバック、グループワーク演習、グループでのプレゼンテーションおよび個人レポートで構成される。PBLゼミナールで培った能力をもとに、デジタル社会における保健・医療・福祉・教育や保育分野で対人援助やコミュニケーションが抱える課題について、受講生が幾つかのグループに分かれて考える。グループワークを通して課題の問題点を明らかにし、要因分析を踏まえた解決策を提案する。実務経験を有する教員からのアドバイスを踏まえ解決策を練り直し、最終報告会において発表する。	共同
	PBLゼミナール I	課題解決の手法には、一定の手順がある。それを学び、身に付けることが必要になる。I～IVのゼミナールを通して、それを獲得する。まず、本ゼミナールでは、社会の課題とは何か、どうして課題なのかを調べることから始め、課題発見の力をつけることを目的とする。一般に言われている課題の中に自分なりの視点を設け、その視点から課題の歴史的背景を探ったり、別の視点からの捉え方を学び、課題の大きさや広がりを実感するとともに、自己とのかかわりを考察し、自分事としての課題を見つけていく。	
	PBLゼミナール II	課題解決の手法には、一定の手順がある。それを学び、身に付けることが必要になる。I～IVのゼミナールを通して、それを獲得する。本ゼミナールでは、課題を探求する前の段階として、どのようなことを認識する必要があるかを理解する。課題を取り巻く状況や歴史的背景などを調べるとともに、社会への影響などを見極め、解決することによってどのような利点があるかを理解し、課題にも早急に取り組むものとして見極めを行うことができるようにする。	
	PBLゼミナール III	ゼミナール I と II で培った能力をもとに、担当教員の専門分野の現代的課題に挑戦する。本ゼミナールでは専門分野がどのようなものであるか、また、その分野でどのようなことが課題になっているかを理解する。そして、自己の興味関心をもとに課題を見つけ、その解決を目指す。ここでは、課題ごとにグループを形成し、解決に迫ることになる。グループの形成は、関心度に沿って行う。また、グループ内での役割分担を行い、その役割を果たす。この過程で、協働の意味を実感する。	
	PBLゼミナール IV	本ゼミナールでは、ゼミナール III を引き継ぐ形で、担当教員の専門分野の課題に各人が立ち向かい、解決を図ることになる。課題の背景や緊急度を調べるとともにどのようにすれば解決に向かうかの予想を立て、担当教員の助言をもらって、解決に向かう作業を開始する。そして、課題発見から課題解決までの道りをまとめ、他の受講生に紹介できるようにまとめる。この際、課題解決に向けた提案をいかに具体的にできるかについても考える。最終的に発表用のパワーポイントも作成し、プレゼンテーションを行う。	
	卒業研究	4年間の学びの総決算としての位置づけとなる。一方、ゼミナール I～IV で身に付けた学びの手法を活用する課題探究能力の仕上げとしての位置づけともなっている。社会的に最も解決が求められている課題に取り組み、1年間をかけて探求を行う。途中、指導教員の助言を受け、活動を修正して取り組みを進め、論文構成や制作工程を身に付けていく。これらの経過を論文としてまとめる、若しくは、一つの作品として仕上げることになる。そして、これを公開して他者の評価を受ける。	

学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
西九州大学				西九州大学				
健康栄養学部				健康栄養学部				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
				【30】	-	【120】		デジタル社会共創学環に係る内数
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
		3年次		【30】	-	【120】		デジタル社会共創学環に係る内数
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
子ども学部				子ども学部				
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
		3年次						
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
				デジタル社会共創学環	60	-	240	学部等連係課程実施基本組織の設置(届出)
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
		3年次						
西九州大学大学院				西九州大学大学院				
生活支援科学研究科				生活支援科学研究科				
栄養学専攻(M)	2	-	4	栄養学専攻(M)	2	-	4	
栄養学専攻(D)	2	-	6	栄養学専攻(D)	2	-	6	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	臨床心理学専攻(M)	5	-	10	名称の変更(届出)
				臨床心理学専攻(D)	2	-	6	課程の変更(認可申請)
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
健康福祉学専攻(M)	5	-	10	健康福祉学専攻(M)	5	-	10	
健康福祉学専攻(D)	3	-	9	健康福祉学専攻(D)	3	-	9	
看護学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(M)	5	-	10	
				スポーツ科学専攻(M)	2	-	4	専攻の設置(認可申請)
				保健医療学専攻(D)	2	-	6	専攻の設置(認可申請)
(計)	28	-	61	(計)	34	-	77	
西九州大学短期大学部				西九州大学短期大学部				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190	-	380	(計)	190	-	380	